

# 高岡市立博物館年報

第 34 号

令和元年度

高岡市立博物館

## はじめに

高岡市立博物館は、当地の歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保管、展示、また調査研究や教育普及など、さまざまな事業の継続と充実に努めています。令和元年度、当館では多岐にわたる事業を実施しました。

まず展示事業として常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業の分かりやすい紹介に努め、常設展内のお宝コーナーでは、4回のミニ展示を順次開催しました。前年度末から年度当初にかけて開催した館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介しました。特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」では、2019年が高岡開町410年の節目にあたることから、本展では初公開史料のほか、当館が収蔵する前田利長の書状を中心に展示・紹介しました。館蔵品展「新収蔵品あれこれ」では、近年当館に新たに収蔵された資料を展示・紹介しました。館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する古い生活道具類「民具」を展示・紹介しました（本展では天神画像・人形などを特別展示し、次年度7月12日まで開催）。

教育普及事業としては、外部講師による郷土学習講座(3講)のほか、古文書講座(6講)を開催しました。また、桜の時期に合わせた屋上開放「古城公園展望台」のほか、呈茶の会「松聲庵 -博物館で抹茶を楽しみませんか-」（春・秋）を開催しました。また講師・委員の派遣協力、番組出演、寄稿、監修のほか、高岡テクノドームでの博物館サテライトギャラリーも実施しました。

そのほか、高岡の歴史・民俗・伝統産業等に関する資料の収集に努めました。調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組みました。また、昨年度に引き続き、国登録有形文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要指定へ向けた当館収蔵の鋳物資料調査を行いました。加えて当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、計838件の資料情報をインターネット上で公開しました。

地域の歴史と文化の継承という博物館の任務には、決して終わりはありません。それは幅広い方々のご理解、ご協力があってこそ、初めて可能になります。職員一同、さらに親しまれる博物館を目指して努力を重ねて参ります。日頃からのご協力を厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも当館事業に一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和3年1月

高岡市立博物館  
館長 廣瀬 由美子

目次	
	<b>I 事業の状況</b>
	1 展示事業
	(1) 常設展「高岡ものがたり－楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアム－」…1
	(2) 館蔵品展「昔の道具とくらし」……………1
	(3) 特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」……………1
	(4) 館蔵品展「新収蔵品あれこれ」……………3
	(5) 館蔵品展「昔の道具とくらし」……………6
	2 教育・普及活動
	(1) 郷土学習講座（全3講）…………… 12
	(2) 展示説明会…………… 14
	(3) 古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）…………… 14
	(4) ワークショップ等…………… 15
	(5) 刊行物の発行…………… 16
	(6) 団体見学、展示解説対応…………… 17
	(7) 他団体への協力…………… 18
	(8) レファレンス…………… 23
	(9) インターネットによる広報・普及…………… 23
	3 収集・保存活動
	(1) 購入資料…………… 24
	(2) 寄贈資料…………… 25
	(3) 保存活動…………… 26
	4 調査・研究活動…………… 26
	5 高岡市立博物館に親しむ会との連携…………… 27
	<b>II 管理運営の状況</b>
	1 職員名簿…………… 30
	2 歳出予算…………… 30
	3 高岡市立博物館協議会…………… 30
	4 高岡市立博物館条例…………… 31
	5 高岡市立博物館条例施行規則…………… 32
	6 入館者数…………… 33
	7 当館関連記事一覧…………… 34
	<b>III 施設の状況</b>
	1 沿革…………… 36
	2 施設概要…………… 37
	3 利用案内…………… 39

# I 事業の状況

## 1 展示事業

### (1) 常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」

〔会期〕平成31年4月1日(月)～令和2年3月31日(火) [309日間・通年開催]

〔会場〕本館第1・2常設展示室、休憩室

〔趣旨・内容〕

高岡の歴史、祭礼などの民俗、銅器・漆器などの伝統産業について、分かりやすい紹介に努めている。「お宝コーナー」では時宜に合わせて展示替えを行うなど、絶え間ない発信に努め、展示の充実を図った。

①「国産第1号の電気釜－新収蔵民俗資料－」(4月1日～6月2日)

②「新1万円札の顔・渋沢栄一の書簡」(6月8日～8月12日)

③「ものを象る～高岡ゆかりの彫刻資料～」(10月5日～12月8日)

④「勤王の志士・頼三樹三郎と高岡」(令和2年1月11日～3月15日)

〔展示資料〕(平成19年度年報に掲載)

### (2) 館蔵品展「昔の道具とくらし」

〔会期〕平成31年4月1日(月)～令和元年5月6日(月・振休)

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしについて展示・紹介した。小学校3年の授業单元にも対応した(平成31年2月2日より、年度をまたいで開催したもの)。

〔展示資料、ポスター・チラシ画像、展示風景〕(平成30年度年報に掲載)

### (3) 特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」

〔会期〕令和元年7月27日(土)～10月14日(月・祝) [68日間]

〔会場〕新館第1企画展示室

〔趣旨・内容〕

2019年は高岡開町410年の節目にあたる。本展では初公開史料のほか当館が収蔵する前田利長の書状を中心に展示・紹介した。その内、年月日未詳「前田利長書状(五兵へ宛)」(不用庵文庫)は「てんしゆ(天守)」とある貴重なもの。また年未詳六月十七日付「前田利長書状(長兵へ宛)」は「中田」(高岡市中田)の市で布(麻布)の換金等を指示しているものである(市指定文化財)。

## 〔印刷物〕

- ・ポスター（A3版、片面4色刷、250枚）
- ・チラシ（A4版、片面1色刷、3,000枚）
- ・パンフレット（A4版、1色刷、総頁数16、1,000部）

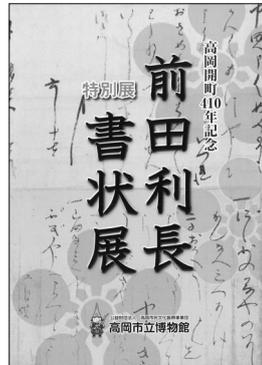
## 〔展示資料〕計36件36点

No.	資料名(宛所)	年月日	形態	寸法 (縦×横/cm)	備考	所蔵者
1	前田利長書状(五兵へ宛)	年月日未詳	縦紙(軸装)	31.4×51.9	普請材木の取り寄せ等につき	不用庵文庫
2	前田利勝判物(二上渡守かた宛)	天正13年閏8月25日	折紙(卷子)	28.5×43.3	二上渡守に渡船の従事命令	当館
3	前田利長判物(守山・富山町惣鍛冶中宛)	慶長2年12月16日	折紙(軸装)	33.5×48.0	守山・富山の鍛冶役令状	当館
4	前田利長知行宛行状(宛所不明)	慶長9年閏8月24日	折紙(軸装)	34.7×45.2	知行宛行状(三十石)	当館
5	前田利長知行所目録(野村小右衛門尉他三名宛)	慶長10年10月24日	継紙	35.5×80.3	知行所目録(越中ノ計二千石)	当館
6	前田利長書状(あわち宛)[複製]	(慶長14年)4月12日	縦紙(卷子)	33.0×49.5	高岡木町の町立許可	当館 (原本は木町神社)
7	前田利長書状(中少他一名宛)	(慶長14~16年カ) 5月30日	縦紙	34.5×50.0	鋳物師を現高岡金屋町に招聘。 高岡市指定文化財	当館
8	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳6月17日	縦紙(軸装)	33.1×51.3	中田布換え皆済令状。 高岡市指定文化財	当館
9	前田利長書状(つしよ宛)	年未詳7月7日	縦紙	35.0×52.0	草島・千原崎渡・町立等許可	当館
10	前田利長書状(中少宛)	年未詳9月10日	縦紙(卷子)	36.2×56.9	知行割に付無足書上令状	当館
11	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳7月9日	縦紙(卷子)	33.6×50.5	飛騨入役につき	窪田宗則氏
12	前田利長書状(長兵へ宛)	年月未詳21日	縦紙(卷子)	33.5×49.3	飛騨入役の書付達し状	窪田宗則氏
13	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳7月14日	継紙(卷子)	33.5×51.6	茂住掘子の山へ走る者の還村につき	窪田宗則氏
14	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳8月27日	縦紙(卷子)	33.6×52.3	河上次郎四郎の上方よりの下向聞届	窪田宗則氏
15	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳3月6日	縦紙(卷子)	33.4×51.6	熊皮二枚到来につき返礼	窪田宗則氏
16	前田利長書状(長兵へ宛)	年未詳5月1日	縦紙(卷子)	33.6×52.0	茂住宗貞よりの音信等につき返礼	窪田宗則氏
17	前田利長書状(左内宛)	(慶長14~16年カ) 5月10日	縦紙(卷子)	33.5×52.2	かます一折十連到来につき返礼	窪田宗則氏
18	前田利長書状(左内宛)	(慶長8~14年カ) 12月16日	縦紙(卷子)	33.6×52.0	蜜柑一折到来につき返礼	窪田宗則氏
19	前田利長書状(九兵へ・左内宛)	年未詳4月8日	縦紙(卷子)	33.4×50.1	扇二本到来につき返礼	窪田宗則氏
20	前田利長書状(九兵へ・左内宛)	年未詳2月21日	縦紙(卷子)	33.5×52.6	勝栗一折到来につき返礼	窪田宗則氏
21	前田利長書状(おひさ宛)	(慶長14年カ) 9月15日	折紙	40.1×54.7	高岡転居への見舞品返礼	個人(高岡市立中央図書館寄託)
22	前田利長書状(いな徳左衛門宛)	(慶長8~15年カ) 6月12日	折紙(軸装)	16.5×43.5	おち瓜二十への礼状	当館
23	前田利長・永姫侍女奉書(くすし三ゑもん宛)	(慶長15~19年カ) 5月2日	縦紙(卷子)	27.7×43.0	鱸三枚の返礼。旧上坂家文書	島田慶博氏
24	前田利長書状(九兵へ・左内宛)	年未詳5月9日	縦紙(軸装)	33.2×49.1	鱸返礼	佐渡豊氏 (高岡市寄託)
25	前田利長書状(九兵へ・左内宛)	年未詳5月14日	縦紙(軸装)	33.5×49.1	杏子返礼	佐渡豊氏 (高岡市寄託)
26	前田利長書状(山田与兵へ宛)	年未詳6月5日	縦紙(軸装)	33.4×49.1	杏子返礼	佐渡豊氏 (高岡市寄託)
27	前田利長・永姫侍女奉書(三ゑもん宛)	(慶長15~19年カ) 3月5日	縦紙(卷子)	28.7×39.7	秤を三右衛門に下賜される	島田慶博氏 (現当館)
28	前田利長書状(九兵へ・左内宛)	(慶長15~19年カ) 4月2日	縦紙(卷子)	29.5×43.9	三右衛門に小袖の下賜・病状報告	島田慶博氏 (現当館)
29	前田利長書状(三ゑもん宛)	(慶長15~18年カ) 7月29日	縦紙(卷子)	33.5×47.8	腫物の膿を吸い出す薬を所望	島田慶博氏
30	前田利長書状(いちかわ・宮井宛)	(慶長15~18年カ) 7月1日	縦紙(卷子)	27.9×38.1	三右衛門に帷子等の下賜・投薬継続を指示	島田慶博氏
31	前田利長書状(つしよ宛)	年未詳2月29日	縦紙	32.5×52.8	薬師一くわんこの地へ到着につき	糸魚川市 歴史民俗資料館
32	前田利長書状(つしよ宛)	(慶長19年カ) 5月10日	縦紙	34.5×52.4	山崎閑斎「高田方」等四ヶ条	糸魚川市 歴史民俗資料館
33	奥村長兵衛書状(川上次郎四郎宛カ)	年未詳2月21日	縦紙(卷子)	33.3×47.4	年頭祝儀到来などにつき返礼	窪田宗則氏

34	奥村長兵衛書状(川上次郎四郎宛)	年未詳3月4日	継紙 (扁額/元は折紙)	17.5×107.5	広間の材木、天井板御用につき返礼	窪田宗則氏
35	奥村長兵衛書状(川上二郎四郎宛カ)	年未詳6月11日	堅紙(卷子)	29.1×46.0	天井板肝入などにつき	窪田宗則氏
36	奥村長兵衛書状(川上二郎四郎宛カ)	年未詳12月23日	堅紙(卷子)	29.3×45.8	銀子請取披露などにつき返礼	窪田宗則氏
37	前田利長画像(長光寺本複製)	原本は江戸期	軸装 〔絹本著色〕	84.6×33.5	原本は高岡市石堤・長光寺旧蔵	当館



チラシ・ポスター



パンフレット



展示風景

#### (4) 館蔵品展「新収蔵品あれこれ」

〔会期〕 令和元年11月2日(土)～令和2年1月13日(月・祝) [58日間]

〔会場〕 新館第1企画展示室

〔趣旨・内容〕

当館では、日ごろより高岡の歴史・民俗・伝統産業等にかかわる資料を収集し、適切に保存・管理、調査・整理、展示・公開している。本展では、近年新たに収蔵された博物館資料を展示・紹介した。その内、元和9年(1623)2月14日付「下関村内高岡明屋敷方免相定書」(飯田家文書)は、不明であった藩主の休憩宿泊施設「高岡御旅屋」の創建年代が元和9年以前であることを示す史料である。

〔展示資料〕 計51件104点

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵 (寄贈者)
1	前田長種判物(二上渡守かた宛)	慶長6年(1601) 9月3日	1	28.9×44.9	小矢部川を現在の高岡市守護町と木町を結ぶ二上渡し守の船頭らに、渡船を新造し今年に限り通行人より銭の徴収を許可したもの。前田長種(1550～1631)は、守山城代として利常を養育しながら領内の治政を統括した	当館 (個人)
2	越中中郡新屋関村検地打渡状 (大西金右衛門尉等6人→)	慶長15年(1610) 10月20日付	1	28.0×41.9	高岡築城・開町の翌年に行われた検地の結果を通達したもの。射水郡下関村(現高岡市下関等)当時「中郡新屋関村」と呼ばれていたことや、石高は161石余あるが、この内、「高岳御屋敷奉行衆」の武家屋敷分66石余が引かれていることなどがわかる。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
3	下関村内高岡明屋敷方免相定書(加賀藩主・前田利光→下関村又左衛門等)	元和9年(1623) 2月14日付	1	39.7×56.0	高岡築城(1615年)前後から、金沢へ転居した武家屋敷の跡地(明屋敷)は新田開発(新開)された。下関村領では5度(1613・16・23・34・47年)新開高が計上され、元和2年(1616)の124石余が最大の開発である。本書はその内、元和9年段階の免相(年貢率)などの通達。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
4	大仏屋敷請状(坂下町極楽寺良寛等3名→下関村肝煎又右衛門等3名)	延享3年(1746) 2月	1	25.6×37.0	高岡大仏が造立された翌年に、願主の坂下町極楽寺の良寛と坂下町の町役人から地権者の下関村村役人に出された土地借用証文。飯田家文書のうち	当館 (飯田弘一氏)
5	伏木浦御蔵米積舟宿に付御礼願上書(控/鶴屋善右衛門→西海屋万右衛門等2名)	安永9年(1780)	1	23.9×30.9	安永8年、伏木湊で大坂廻米(年貢米を大坂へ廻送すること)の権利をめぐり、伏木にある廻船問屋の西海屋(堀)万右衛門・網屋(岩坂)助左衛門と鶴屋(堀田)善右衛門が争った。本史料はその翌年に鶴屋が判決を催促した願書の控え。堀田家文書のうち	当館 (堀田一善氏)
6	吉久御蔵出船御米等積出堀川并土居川除百間五寸之分間絵図	文化2年(1805) 3月	1	46.7×69.7	原図は石黒信由作(国指定重要文化財)。縮尺は1/1260。江戸時代、現高岡市吉久に置かれていた加賀藩の「御蔵屋敷」(年貢米蔵)周辺の絵図。吉久御蔵には、射水・砺波郡の村々から舟で庄川を下って大量の年貢米が納められた。荒木家文書のうち	当館

7	二上組二塚村変地所勢子年限取極場所見取絵図	嘉永2年(1849)6月	1	63.0×132.0	現高岡市二塚の絵図。水害によって不毛となった土地の復旧を奨励するための補助米を支給する取り決めがなされた場所が記される。5年・10年・15年の開詰(復旧予定)が色分けされている。青木家文書のうち	当館
8	「砺波郡御巡見御道筋手絵図」	安政3年(1856)	1	11.1×352.1	高岡より南へ戸出、杉木新町(砺波市)、福野町、井波、城端、福光を経て加賀国河北郡境に至る街道を描いた絵図	当館
9	真宗大谷派十四世法主・琢如消息(写/越中国院家中等)	江戸後期	1	18.0×205.0	真宗大谷派(東本願寺)十四世法主・琢如が越中国の院家中(真宗寺院)、一家衆(本願寺宗主の一族)、惣坊主中、惣門徒中宛の消息の写し。琢如(1625～71)は江戸前期の真宗大谷派の僧	当館
10	越中北前船破船荷物分散帳等関係史料	江戸後期	5	-	江戸後期、各地で北前船が難破した際の状況、その後の処理記録等について書き留めた書類	当館
11	高岡市伏木旧各町字限絵図	明治初期	7	-	現高岡市伏木地区における旧町ごとの字限絵図各種。八坂家文書のうち	当館 (今井昭次氏)
12	射水郡旧矢田新村地内、伏木町大字古府村江組替地々引絵図	明治24年(1891)9月	2	-	矢田新村(現高岡市伏木矢田新村)から古府村(現高岡市伏木古府)へ土地の組替えを行うために作成された絵図。八坂家文書のうち	当館 (今井昭次氏)
13	「越中国射水郡高岡地図」	明治前期	1	54.8×72.2	明治前期の高岡町が描かれた絵図。17の色分けされた各町村の領地のほか、官道、支道、町村境なども記される	当館
14	国泰寺山門指図(二十分の一)	明治期	1	101.0×132.5	高岡市太田の西田地区にある臨済宗国泰寺派大本山・国泰寺山門の設計図(下図)	当館
15	太政官布告(越中国射水郡は七尾県から新川県へ)	明治5年(1872)9月	1	21.9×29.7	高岡を含む越中国射水郡が、七尾県(現石川県能登地域)から新川県(現富山県)編入を命ぜられたもの	当館
16	質屋営業願書(大野与三治郎・下関村戸長大野太作→石川県権令・桐山純孝)	明治9年(1876)10月18日	1	23.9×35.5	越中国第16大区小3区射水郡下関村(現高岡市下関等)の大野与三治郎が以前より営業していた質屋業について、今般の通達によって改めて願出しているもの	当館
17	肥物卸小売営業承認書(高岡市役所→十二野長次郎)	明治25年(1892)	1	17.7×13.6	高岡市役所発行の商売営業許可証。申請者は高岡上川原町の十二野長次郎(米仲買と兼業)	当館
18	高岡米商会所定期米価格高低表	明治25年(1892)、同32年(1899)	2	-	高岡米商会所(のち米穀取引所と改称)の定期米(先物取引)の価格高低表。高岡米商会所仲買・十二野長次郎、高岡新報社発行	当館
19	電信略語表	明治後期	2	-	電信略語とは、電信(電報)を発信する際に必要な情報を、カタカナなどを用いて記号化したもの。米取引などに必要な情報(天候・生育状況等)とともに「高岡」の地名もみられる	当館
20	坪井信良書簡(玉虫散士宛)	辛丑(明治34年カ)12月31日	1	17.8×38.4	高岡最古の町医者佐渡家出身で、福井藩を経て幕府奥医師となった幕末の蘭方医・坪井信良(1823～1904)晩年自筆の書簡	当館 (太田久夫氏)
21	犬養毅書簡(島田孝之宛)	年月未詳26日	1	17.0×49.0	明治～昭和期にかけて政党政治を推し進めた政治家で、首相の際に五・一五事件で暗殺された犬養毅(1855～1932)が、現・高岡市中田出身の政治家・島田孝之(1850～1907)に宛てた書簡	当館 (東 修氏)
22	田口卯吉書簡(島田孝之宛)	年月未詳(明治期)31日	1	16.5×56.3	明治期の経済学者・政治家の田口卯吉(1855～1905)が島田孝之に宛てた書簡	当館 (東 修氏)
23	筏井竹の門書簡(安嶋太次郎宛)	〔消印〕大正7・8年(1918・1919)頃	2	-	明治から大正にかけて高岡の俳壇で活躍した筏井竹の門自筆の葉書2通。2通共に「大牧(温泉)」の文字が確認できる。1通目は風邪をひいて寝床にいる自分自身を描いたものか。2通目は草の茂みで木こりが斧を振りかざす瞬間を描いたもの	当館
24	筏井竹の門宛書簡(三輪末央・塩屋鶴平・早見光太郎より)	〔消印〕明治40年代～大正13年(1924)	3	-	筏井竹の門宛の書簡3通。1通目の差出は俳人・三輪末央。句集『猿蓑』(1691年刊)の収録句を裏面に記す。2通目の差出は俳人・塩屋鶴平(1877～1940)。自身の病気療養のため入院中で、見舞状の礼などを述べる。3通目の差出は福井出身の県会議員等を務めた早見光太郎(1869～不詳)。早見と竹の門は、大正3年(1914)5月2日に福井県の春嵐亭で句会を開いている	当館
25	筏井竹の門書簡(発田喜太郎宛)	年未詳〔大正期〕10月15日	1	23.3×30.7	筏井竹の門自筆の書簡。差出は木舟町の発田喜太郎宛で、竹の門が発田家の猿滑の枝を1、2枝所望したいとの内容	当館 (島田慶博氏)
26	『伏木港概要』	昭和7年(1932)	1	19.0×10.5	伏木港の歴史、港の水深・水位・潮位、気象情報をはじめ、伏木の名所・旧跡などの情報も記される	当館
27	高岡劇場スクラップブック	昭和12～30年(1937～55)	8	-	高岡の映画黄金時代(昭和20年～30年代前半頃)をリードした、高岡劇場に関する新聞記事のスクラップブック。記事のほかロゴマークの原本と思われるものや、各種優待券、社長(桜井宗一郎)の死亡記事などもある	当館
28	伏木関係絵葉書	明治40年(1907)～昭和期	15	-	現高岡市伏木の港や市街、名所、風景などを写した写真絵葉書	当館
29	高岡名所絵葉書(複写)	明治40年(1907)～昭和期	6	-	高岡古城公園、瑞龍寺、関野神社等の市内名所や旧跡、風景を写した写真絵葉書	当館

30	金預手形(高岡 鍋屋仁左衛門)	江戸期	1	16.2×4.2	越中高岡の鍋屋仁右衛門が、金2歩の預かりを証明する手形	当館
31	判鑑(高岡木町鷲塚屋大橋善右衛門、同木舟町井波屋左七郎等5名)	江戸期	5	-	判鑑とは、印影の真偽鑑定用に役所・関所・または取引先などにあらかじめ渡しておく見本(現在の印鑑証明)	当館
32	加賀藩藩札(銭一貫文)	明治元年(1868)5月~6月6日	1	19.3×5.9	加賀藩が独自に領内に発行した紙幣。銭の預かり手形なので「銭札」という。のち同6年(1873)6月10日をもって銭札の通用は禁止された	当館
33	「高岡発汽車時間表」	明治39年(1906)4月改正	1	35.9×25.6	明治39年(1906)4月改正時の高岡発汽車時間表。金沢行き6本、富山行き6本、城端行き7本、伏木行き11本の各方面に向かう高岡駅発の時刻表が記載	当館 (松原 一氏)
34	高岡市内商店引札各種	明治~昭和期	6	-	引札は、江戸から昭和初期頃まで刷られた印刷物。客を「引く」という縁起を担いで、商店の得意先や街頭で配られた(関東は「引札」、関西は「散」と呼んだ)	当館
35	映画ポスター「英傑秀吉」	昭和4年(1929)	1	-	高岡市小馬出町にあった日活直営の映画館「日の出館」で公開された映画「英傑秀吉」(1929年3月31日公開)のポスター。日の出館は、同36年まで存続した	当館 (神初豊一氏)
36	「高岡 - 戸出 - 出町乗合自動車時刻表」	昭和9年(1934)12月改正	1	28.0×39.5	「高岡 - 戸出 - 出町(現砺波市中心部)」間を走る乗合自動車の時刻表。乗合自動車とは、一定の運賃で不特定の旅客を乗せ、定まった路線を運行する大型の自動車のことで、現在のバスにあたるもの	当館
37	乳母車	(製造年)昭和29年(1954)	1	幅90.0×奥行64.0×高さ88.0	乳幼児を乗せる専用の手押し車。長男の誕生に際し、その祝いで寄贈者の実家から贈られたもの。乳母車の製造は、当時高岡片原横町にあった「あきもと乳母車店」	当館 (藤井喜代乃氏)
38	堀川敬周画/殿岡神通賛《秋景山水図》	安政4~5年(1857~58)頃	1	106.1×42.7	高岡初の町絵師といわれる堀川敬周(1789頃~1858)最晩年の作品。左上の余白には富山出身の国学・漢学者の殿岡神通(青木北海/1782/83~1865)による賛が書かれる	当館
39	堀川敬周地面売渡証文	嘉永7年(1854)4月14日	1	24.0×18.8	敬周が亡くなる4年前の嘉永7年に書かれたもので、宅地を大工清蔵に金6両2歩(約675,000円)で売却した証文	当館
40	二代歌川広重画《諸国六十八景/越中青城山》	文久2年(1862)初版	1	23.6×17.5	二代歌川広重の「諸国六十八景」シリーズの1枚で、前景に水見の阿尾(「青」は誤記)城を背景に守山城を描く。二代歌川広重(1826~69)は浮世絵師。師の画風を忠実に継承した風景画などをはじめ、外国輸出用の茶箱のラベル絵なども描いた	当館
41	淵上旭江画「北陸奇勝」	寛政12年(1800)刊	1	22.4×15.8	「越中青城山」は二代広重のそれ(1862年)と同じ構図であり、広重が参考にしたことがわかる。備中(岡山県)の画家・淵上旭江(1753~1816)の「日本勝地 山水奇観」8巻のうち。若狭から越後まで全25図が収録。賛の漢詩は美濃(岐阜県)の女流漢詩人で画家の江馬細香(1787~1861)	当館
42	淵上旭江画「北陸奇勝」より越中の景勝地(複写)	-	4	-	「越中阿尾村」、「越中伏木窟」、「越中富志貴浦」、「越中船橋」	当館
43	正村陶所筆《羅漢図》	明治~昭和期	1	132.9×33.4	高岡出身の日本画家・正村陶所(1886~1954)が描いた羅漢図。5人の羅漢(仏道修行者)の内、半託迦尊者は香炉の煙から龍を現出させており、跋陀羅尊者は虎を従えている	当館
44	筏井竹の門筆《小督の塚》	大正8年(1919)頃	1	34.7×31.6	『平家物語』や謡曲などで知られる悲劇のヒロイン・小督局の塚を描いたもの。宝篋印塔か灯籠のような姿(現在は小さな五輪塔)で描かれ、ゆかりの桜の木に囲まれている。塚は現在、京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町にある	当館
45	筏井嘉一和歌書	昭和後期	1	129.8×33.0	高岡市出身の歌人・筏井嘉一の和歌書。「兼信先生古稀祝賀」と題され「戦禍にて危ふかりにしみいのち(御命)をなか(長)らへませし 今日よろこひ」。嘉一(1899~1971)の父は俳人・俳画家などとして活躍した竹の門	当館
46	東林雪象書《一行書》	江戸後期	1	128.1×28.8	江戸後期の高岡を代表する漢詩人の一人・東林雪象の一行書。中国唐代の僧・善導「般舟讚」の一節。東林(1786~1841)は江戸時代の僧・漢詩人。高岡市石堤の長光寺17世。漢詩壇の中心として活躍し、後に上京、本願寺の御使僧として全国に遊ぶ	当館
47	島田孝之書《五律》(本林篤追悼)	明治32年(1899)	1	136.0×34.0	現高岡市中田出身の政治家・島田孝之(1850~1907)が本林篤(1857~98)の死を悼んだ五言律詩(五律)の書。本林は、旧作道村(現射水市)初代村長で、立憲改進黨の島田らとともに自由民権運動で活躍した	当館
48	木村天紅作《縄目菱文乾漆壺》	昭和12~25年(1937~50)頃	1	径18.1×高さ28.9	現高岡市新横町出身の漆芸家・木村天紅作の乾漆壺。乾漆の特徴である麻布が木地全体を覆うように張られる。天紅(1887~1950)は、高岡漆器に朝鮮螺鈿の技法を移入した漆芸家。螺鈿には鮑の中厚貝を用い、文様の糸鋸切り、割貝技法など高岡漆器に新技法を紹介した	当館

49	大井見太郎 《孔雀鳩文研出蒔絵文庫》	昭和～平成期	1	縦33.4×横 25.8×高12.2	黒漆の蓋の表面に、2羽の横向きの孔雀鳩を配し、蒔絵、梨子地蒔絵、螺鈿の技法により華やかさを表現している。大井見太郎(1913～2001)は現・高岡市下関町出身の漆芸家	当館
50	山崎立山作 《高岡御車山文蒔絵パネル》	昭和30～44年 (1955～69)頃	1	36.8×29.4	高岡で毎年5月1日に行われる高岡御車山祭の山車の車輪部分を蒔絵で表したパネル。山崎立山(1895～69)は高岡市定塚町出身の漆芸家	当館
51	合田実作 《立山文卵殻貼りパネル》	昭和期	1	31.4×40.6	金雲たなびく朱の空を背景に、卵殻を使用して立山の白い山並みを表現したパネル。合田実(1933～83)は高岡市大坪町出身の漆芸家。父・平吉と山崎立山に師事した	当館

※複数資料の寸法は割愛。



チラシ・ポスター



展示風景

### (5) 館蔵品展「昔の道具とくらし」

〔会期〕 令和2年2月1日(土)～3月31日(火)〔51日間〕

〔会場〕 新館第1企画展示室

〔趣旨・内容〕

本展では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」を展示・紹介した(今回は天神画像・人形なども展示)。小学校3年の授業単元にも対応した。

〔展示資料〕 計102件148点

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横×高cm)	備考	所蔵 (寄贈者)
1	菅笠		1	径52.0×高 12.5	主に雨具や日よけに使われた。高岡市福岡地域では、古くから菅が栽培され、その菅で笠が生産されてきた。平成21年(2009)には「越中福岡の菅笠製作技術」として、国の無形民俗文化財に指定された	当館 (神保成伍氏)
2	カンカン帽	大正中～ 昭和初期	1	径20.6×高 9.6	麦藁帽子。麦藁をプレスして、糊やニスなどで塗り固めているため、軽くて丈夫である	当館 (富田保夫氏)
3	子供用着物(四ツ身紋付給)	昭和前期	1	丈112.7×裾 55.9×袖丈 72.9	七五三などで使用したものと思われる。四ツ身は主に4～12歳頃の子供用の着物のことをいい、並幅の反物から子供の身長4倍の長さの布をとり、それらを縫い合わせて作られる	当館 (手崎純子氏)
4	モジリ(巻袖)		1	身丈83.0× 裾60.0	女性用の仕事上着。袖口が細いため、仕事がしやすく、重ね着もできる	当館 (吉田元太郎氏)
5	袖無し		1	身丈63.0× 裾39.0	袖がない腰丈ほどの短い上着。農作業時や、少し寒い時に作業衣や着物の上に着た。「ドーゲン」ともよばれる	当館 (藤田よしえ氏)
6	もんぺ		1	丈80.0×腰 回94.0	女性の農作業用の野良着。戦時中からの女性の日常着だった	当館 (国奥定治氏)
7	盥		1	径60.0×高 22.5	洗濯用の盥。夏は盥でスイカやビールを冷やすのにも使われた	当館
8	洗濯板		1	幅55.0×奥 径55.0×厚 1.6	洗濯盤に湯や水を入れて、洗濯板を立て掛け、衣類を板の凹凸の溝にこすり合わせて汚れを落とす。女性の大切な嫁入道具の一つでもあった	当館 (谷道俊雄氏)

9	洗張板		1	幅189.6×奥行40.6×厚1.7	着物などを洗濯する際には、着物をほどいて布の状態に戻して洗う。洗い終わった布は糊付けをし、濡れているうちに洗い張りの板に張りつけて乾かす	当館 (日尾清作氏)
10	写真「盥と洗濯板で揉み洗い」(複写)	昭和30年代以前	1	—	盥に水を入れ洗濯物を浸けて、しゃがんで洗濯板を使い、石鹸をこすりつけながら揉み洗いする	【昭】
11	写真「庭に盥を出して水遊び」(複写)	昭和47年(1972)	1	—	盥の中で水遊びをする子ども	【昭】
12	写真「洗張板で布を乾かす」(複写)	昭和51年(1976)	1	—	シワにならないように乾かすことができる	【昭】
13	「着物の丸洗いの図」(複写)		1	—	着物を丸洗いする場合の手順を示したもの	【い】
14	紵台		1	[展開時]幅62.3×奥行5.0×高37.9	衣服などを縫い目の糸が表から見えないように縫う際に、布がたるまないように一端を固定して引っ張るために使用する道具。本来、掛糸の先に付いた掛針(掛針器)というものに布を挟んで留め、引っ張りながら紵ける(縫う)	当館
15	針箱		1	幅21.0×奥行20.0×高45.5	針仕事をするときを使う、針や鋏などの小物類を入れておくための箱	当館
16	竹皮草履		2	幅12.0×奥行22.5	一足。竹の皮を編んだ底の部分に鼻緒が付けられた草履。底が半分ほどの長さしかない「足半草履」もある	当館 (富田保夫氏)
17	草鞋		2	幅22.0×奥行13.0	一足。主に稲藁で編んだ、長時間の歩行に適した履物。足首に藁紐を巻き付けて固定する	当館
18	藁長靴		2	幅10.9×奥行25.0×高34.0	一足。雪の中で履く藁製の長靴。底が草鞋になっていて、取り外しできる。爪先部分が割れており、履いてから縄で縛るため、隙間から雪が入らないようになっている	当館
19	ゲートル(巻脚絆)		2	—	足の脛を保護するためのもの。ラシヤ(厚く密な毛織物)製の細い帯状布を巻き付ける巻脚絆。軍隊でも使用された	当館 (本房繁治氏)
20	男物用下駄		2	幅10.7×奥行23.0×高10.0	一足。雨天や雪道の歩行に履いた。差歯は減ったら差し替えた	当館 (西田弘氏)
21	子供用下駄		2	幅8.2×奥行16.8×高8.8	一足。2本歯の子供用差歯下駄	当館 (本郷与一郎氏)
22	女物用雪下駄		2	幅9.6×奥行22.4×高11.1	一足。歯の部分に鋸が取り付けられ、雪の中でも滑らない工夫がされている	当館 (横山宏平氏)
23	箆筥		1	幅52.0×奥行45.0×高21.0	北陸や西南日本での箆の地域名。野菜を洗ったり、研いだ米の水を切る。食材などを干すのにも使う	当館 (田中為雄氏)
24	写真「囲炉裏端の風景」(複写)		1	—	場所・氷見市内。食事時は囲炉裏のまわりにそれぞれ箱御膳を並べて食事をしたり、来客をもてなす接客の場にもなった	【氷】
25	写真「レンガ造りの竈で料理」(複写)	昭和32年(1957)	1	—	竈には羽釜が2つ、真ん中には鉄鍋がのっている。写真奥にはヤカンやブリキ製のバケツが置いてある	【台】
26	「囲炉裏の図」(複写)		1	—	自在鉤で吊るされた鉄瓶や囲炉裏端の様子が示された図	【イ】
27	鉄瓶	大正期	1	幅18.0×奥行17.5×高22.5	囲炉裏の自在鉤にかけて湯茶を沸かす道具。高岡開町(1609年)当初、金屋町では鋳物師(鋳物職人)が鍋や釜、茶道具などの日用品をはじめ、鋤や鍬などの鉄器を鋳造した。江戸中期以降になると、大型の梵鐘や灯籠、小型の仏具や火鉢、キセルなどの銅器も鋳造するようになった	当館 (本沢義則氏)
28	写真「囲炉裏に置かれた竈にかけられた羽釜」(複写)	昭和34年(1959)頃	1	—	手前には自在鉤に鉄瓶が下げられ、竈の焚口の前には火箸がある。写真奥の薪を燃やしている	【台】
29	鉄鍋		1	径30.4×高17.2	囲炉裏や竈に掛けて、汁物や煮物などを煮炊きした。大鍋では大量の里芋やさつま芋などを煮る	当館
30	鉄製羽釜		1	径43.0×高33.0	ご飯を炊く釜。竈にかけるための鐙を羽根に例えて羽釜という	当館 (筏井晴夫氏)
31	アルミ製羽釜		1	径41.0×高33.5		
32	蒸籠		4	—	鍋や釜の上のせて、もち米・団子・赤飯などを蒸す道具	当館 (金刺亀太郎氏)
33	陶製釜	昭和14～20年(1939～45)頃	1	径21.8×高15.0	戦時中の金属代用品。戦時中の「金属供出令」により、家の中にある金属製品を全て差出し、代わりに木や陶器の代用品を使うことを強制された。釜のほか、湯たんぼや枕などいろいろな代用品があった	当館 (五嶋孝一氏)
34	しゃもじ立て		1	径6.3×高59.7	しゃもじ立ては、竹の節を用いて筒を連ねたように作ったもの。台所の脇に掛けておいて、しゃもじ・はながい・箸などを挿しておくのに使われた	当館 (徳田三郎氏)

35	東芝製 電気釜	昭和30年(1955)	1	径33.3×高25.3	国産第1号の電気釜(炊飯器)。東芝(発明は協力会社の光伸社)製。主婦の家事労働時間を大幅に減らし、生活様式に大きな変化をもたらした	当館 (有澤康夫氏)
36	お櫃		1	径31.6×高23.4	炊きあがったご飯を釜から移し入れて保存しておくための道具。冠婚葬祭用のものに漆塗のものもある。夏は炊いたご飯が腐りやすいので木製のお櫃は使用せず、竹製のものに入れておいた。冬は、稲藁で作った蓋付の入れ物に飯櫃を入れて保温した。	当館
37	保温ジャー「象印トップジャー」	昭和40年(1965)発売	1	幅29.0×高30.5	真空の二重ガラスに覆われた内部に、炊きあがったご飯を入れて保温するもの。電気がなくても保温・保冷できる「魔法瓶」の一つ	当館 (富田保夫氏)
38	写真「改善される台所」(複写)	昭和30年(1955)	1	—	場所・山形県酒田市。タイル張りの竈、新型の手押しポンプなどがある	【台】
39	箱膳		1	幅31.0×奥行31.0×高17.0	一人用のご膳。箱の中に茶碗・箸・皿などを入れておき、食事の時に蓋をあおむけて上に茶碗を並べてご飯を食べる。食事後は中へ食器をしまっておく	当館
40	写真「箱膳で食事をする家族」(複写)	昭和32年(1957)頃	1	—	各々が箱膳で食事をとる風景	【台】
41	写真「ちゃぶ台を囲む食卓の図」(複写)		1	—	数人が囲んで食事をする御膳。昭和戦前から普及し始めたが、多くの農家では戦後まで箱膳が使われていたという	【イ】
42	酒樽		1	径16.0×高34.2	酒を入れておいた道具。上げ底で漆が塗ってあるので、祝い事に使われたものと思われる	当館
43	通い徳利(高岡通町・富田醤油店)	明治末～昭和初期	1	幅14.5×高26.0	酒屋や醤油店が貸し出す徳利。客はこれを店に持っていき、必要なだけの量の酒や醤油を購入した。代金はつけ(後)払いで、お盆と年末にまとめて支払った。貸徳利、貧乏徳利ともよばれる	当館
44	片口		1	径25.0×高15.5	油や酒、醤油など液体のものを入れ、他へ移すのに使用。片側に注ぎ口をもつ。木製や陶磁器製のものもある	当館
45	アルマイト製弁当箱	昭和前期	1	縦19.3×横14.0×厚3.0	アルマイトは、アルミニウムの表面に酸化被膜を作り、錆びにくく強度を高めた加工。これまでの竹の皮や柳行李に代わる弁当箱として、昭和初期頃より普及し始めた	当館 (邑本順亮氏)
46	飯盒	昭和15年(1940)	1	幅20.3×高14.5	炊飯器を兼ねた弁当箱。当初は軍隊で使われた。中蓋(掛子)はおかずを入れるもの。または中蓋1杯の米に外蓋1杯の水で丁度良い水加減となる	当館
47	めんば	昭和50年(1975)	1	幅29.5×奥行21.5×高10.5	エゾ松を材料に作られた曲物の弁当箱。「飯輪」から「めんば」とよばれるようになったという	当館
48	鏝節削り		1	幅27.2×奥行13.0×高9.7	鏝節を削る道具。引き出しのついた箱の上に鉋の刃が付いている。削った鏝節は下の引き出しに入る	当館 (筏井晴夫氏)
49	蒟蒻突き		1	幅40.0×奥行10.0×高5.9	筒の中に蒟蒻を入れて、突き棒で押し出すことにより、金属製の網目から蒟蒻が細長く切断されて出てくる仕組み	当館
50	自在手燭		1	幅19.8×奥行10.1×高13.2	蠟燭を立てて持ち運ぶ移動用の燭台。垂直に立てて鴨居・長押などに引っ掛ける「掛燭」にもなる	当館
51	有明行灯		1	幅26.0×奥行26.0×高35.0	部屋の照明道具。持ち運びができる。油の入った皿に、綿糸などで作った灯芯を入れて点火した。夜明けまで常夜灯として使用されたので、「有明行灯」と呼ばれた	当館 (斉藤尚司氏)
52	家提灯	昭和期	1	径44.6×高75.0	中に蠟燭を入れて明かりをとる道具。日の丸の紋が入っていることから、祭りや行事などに使われたものと思われる	当館 (米森米太郎氏)
53	強盗		1	径27.5×幅42.5	一方向を照らすための手持ち用の灯火具。「強盗提灯」の略。現在の懐中電灯に相当する。中に蠟燭を立てて使用する	当館
54	角灯		1	幅9.2×奥行9.2×高20.5	室内用照明器具。持ち歩くこともできる。家の中の移動や近所へ出かける時にも使用。電灯が普及したあとも、停電時や懐中電灯が普及するまで使われた	当館 (泉治夫氏)
55	カーバイドランプ	大正～昭和前期	1	径14.0×高28.3	カーバイド(炭化カルシウム)に水を加えると発生するアセチレンガスを燃料として使用するランプ。火力が強く、燃料の持ち運びにも便利であった	当館 (徳田三郎氏)
56	練炭コンロ	昭和後期	1	径23.4×高25.6	練炭の中に入れて使用する。風で消えることなく長時間燃えるため、屋外での煮炊きや暖をとる際に用いる	当館
57	火鉢		1	径44.6×高29.2	灰を入れて炭火をおこし、手足を温めたり、湯を沸かしたりする暖房具。石油ストーブが登場して以降、衰退していった	当館 (菊田明美氏)

58	陶製湯たんぽ	昭和戦中	1	幅22.9×奥行15.2×高9.4	中にお湯を入れて、手足や体を温めるための道具。やけどしないように布に巻いて、布団の中に入れて使った。「国策湯丹保」とあり、戦時中の金属代用品である。戦時中に作られた「金属供出令」により、家の中にある金属製品を全て差し出し、代わりに木や陶器の代用品を使うことを強制されていた	当館
59	ブリキ製湯たんぽ	大正～昭和初期	1	幅32.0×奥行24.0×高9.0	身体を温めるために湯を入れて寝床で使う道具。湯が冷めないように、注水口をできるだけ小さく作り、栓をして使う	当館 (織田睦夫氏)
60	豆炭アンカ	昭和40～50年 (1965～75)代頃	1	幅19.3×奥行15.0×高10.9	布団などの中に入れて手足を温める保温器。豆炭(無煙炭と木炭の粉を混ぜて固めた卵型の固形燃料)を中に入れて使用する。商品名「品川アンカ」。未使用品	当館 (織田睦夫氏)
61	ハクキンカイロ	大正12年(1923)～昭和期	1	幅6.7×奥行10.1×厚1.5	懐に入れて腹や腰などを温める携帯用の懐炉(保温器)。大正12年(1923)ハクキンカイロ(株)より発売開始。気化したベンジンが白金(プラチナ)の触媒作用で、徐々に酸化発熱するというもの。未使用品	当館 (織田睦夫氏)
62	コクヨヒーター(足温器)	昭和20年代	1	幅24.4×奥行18.7×高13.1	足を温める道具。木枠に入っている電熱線に電気が通って発熱する仕組み	当館 (神保成伍氏)
63	写真「置炬燵の図」(複写)		1	—	炬燵槽とよばれる木枠の中心に、行火または掘り炬燵を置き、上から炬燵布団をかけて使われた	【イ】
64	炬燵槽		1	幅50.5×奥行50.5×高37.5	中に炭火を入れた行火などをおき、布団の中で足を温めた	当館 (金刺亀太郎氏)
65	ねこごたつ(行火)		1	幅・奥行・高各25.0	中に炭火を入れて手足を温める道具。これを覆うように槽をのせ、その上に布団をかぶせて暖をとった	当館 (江潮安太郎氏)
66	炭取り	明治期	1	径24.5×高32.3	炬燵や火鉢に使う炭を、炭俵から小出しにして持ち運んだり、入れておくための容器。竹製	当館 (藤井喜代乃氏)
67	鍔		1	幅4.5×高37.8	炭火などの中にコテ部を差し込んで熱したものを、着物などの縫い目に当て、縫ったところを伸ばしたり、折り目をつけたりする道具。「焼きごて」ともいわれる	当館 (神保成伍氏)
68	火のし		1	径11.7×長37.7×高5.4	底の滑らかな金属製の鍋の中に炭火を入れ、その熱を利用して底を布に当ててシワをのばすための道具	当館 (吉野作治氏)
69	炭火アイロン		1	幅21.0×奥行10.6×高19.7	上部の蓋を開けて中に炭火を入れ、その熱で衣服などのシワを伸ばしたり、形を整えたりする道具	当館 (室崎信一氏)
70	ナショナル スーパーアイロン	昭和2年(1927)発売	1	幅17.5×奥行14.6×高11.9	松下電器製作所(現・パナソニック)が発売した電気アイロン。電気アイロンは、明治33年(1900)頃に登場し、各家庭に普及し始めたのは大正6年(1917)頃であるとされる	当館
71	竿秤	【神初家】明治32年(1899)11月購入	2	—	てこの原理を利用して重さを量る道具で、「棒ばかり」ともいう。重量を計る目盛りをつけた竿と、竿につけた取っ手の紐を支点として、先端に計量するもの(作用点)を、反対側に錘の分銅(力点)を吊り上げ、錘を移動させて水平を保つ位置の目盛りを読む	当館 (当館、高岡源平町・神初豊一氏)
72	一合枡		1	[内法] 7.0×7.0×3.8	米などの穀物や食塩、酒、酢などの容積を量る計量道具。基準となるのは一升枡(1.8L)で、その1/10が一合枡(約180ml)、一合枡×5倍=五合枡(約900ml)の容量となる	当館 (金森栄一氏)
73	五合枡		1	[内法] 11.9×11.9×6.3		
74	液用一合枡		1	[内法] 6.4×4.4	醤油や酢、油、酒などの液体を量る道具。「液用一合」と焼印がある	当館
75	銭枡	江戸後期～明治初期	4	—	高岡の商家・高辻屋で使用されていた、硬貨を計量するための道具。4点それぞれの裏面には年代や計量対象の金種などが墨書されている。①は万延2年(1861)購入の二朱金用(銭枡いっぱい80枚=160朱=1両)。②は長方形の一朱銀用(銭枡いっぱい80朱=5両)。③は二分(歩)判金用。(銭枡いっぱい50枚=100分=25両)。④は一朱銀用か	当館 (当館、高岡源平町・神初豊一氏)
76	ホーロー看板「ヤンマーオフセット式石油発動機販売所」	昭和中期	1	36.4×54.4	ホーロー看板は主に屋外用の表示として、琺瑯仕上げで製作された鉄製看板。ヤンマーオフセット式石油発動機は、大正14年(1925)に製造・販売が開始され、昭和12年(1937)に製造が中止された	当館 (中山武央氏)
77	背板		1	幅47.0×奥行77.0	荷物を担ぐために背負う運搬道具。稲や薪など、量の多い物を運ぶのに便利	当館 (塚喜十郎氏)
78	荷棒(背板用)		1	長71.5	疲れたときなど、荷物を背負ったまま荷棒を背板の下において支えて休息することができる	
79	写真「背板で麦束を運ぶ」(複写)	昭和59年(1984)	1	—	場所・埼玉県横瀬町	【い】
80	写真「背板で荷物を運ぶ」(複写)		1	—	場所・氷見市内。「シヨイコ」ともよばれる	【氷】

81	写真絵葉書「背板で馬肥を運ぶ女性たち」(複写)	昭和8～19年 (1933～44)頃 発行	1	—	馬屋肥とは、家畜の糞尿や敷き藁などを腐らせて作る肥料のこと。庄川(富山県西部)の近辺の農村にて	当館
82	藤箕		1	幅58.0×奥行50.5×高12.0	穀物を選別したり、運搬したりするための農具。板製や竹製などがある	当館
83	写真「箕による籾の選別」(複写)		1	—	両手で縁を持ってあおり、風によって籾を選別する。籾抜き、籾摺り、精米などの秋の収穫作業全般に広く使われた。また、堆肥や肥料を田んぼに撒くなど、様々な用途に使用された	【写】
84	写真「踏車で田に水を入れる」(複写)	大正期	1	—	羽の部分に人が乗って踏むことにより、水位の低い堀から高い田へ水を上げることができる道具。高岡古城公園池の端掘	高岡市
85	田下駄		2	幅15.0×奥行15.0×高5.0	一足。深田や泥田に入って作業をする際に、体が沈むのを防ぐために足に履くもの。水下駄ともいう	当館 (中山武史氏)
86	田股引		1	丈74.0×腰回94.0	水田作業で着る丈の短い股引	当館 (吉田元太郎氏)
87	写真「田植え作業風景」(複写)		2	—	女性が列をなして田植えを行う作業風景	【中】
88	写真「田舟を使った籾刈り作業」(複写)	昭和42年(1967)	1	—	場所・埼玉県所沢市。田舟は主に湿田の籾刈り時に、刈り取った籾を湿田から畦や農道まで運ぶ道具。肥料や土を運ぶのにも使用した	【い】
89	写真「鎌による籾刈り」(複写)		1	—	皆で協力しながら、籾を一束一束刈り取る作業風景	【写】
90	写真「千歯抜きによる脱穀作業」(複写)	昭和30年代頃	1	—	場所・氷見市内	【氷】
91	写真「回転式脱穀機による脱穀」(複写)	昭和30年代	1	—		【高】
92	写真「唐箕による選別作業の図」(複写)		1	—	手前にある両方の口から、穀物が選り分けられて出てくる様子がわかる	【中】
93	写真「千石通しで玄米の選別」(複写)		1	—	土臼で籾摺りをした後の米と籾を選り分ける道具。「千石通し」や「万石」ともよばれる	【写】
94	俵締め機	昭和30年代以前	1	幅67.5×高65.0	米などを入れた俵を締め付けるための衣装(俵詰め)道具。三角形の部分の一辺を地面に付けて立たせ、俵を輪になるように嵌め込み、上部にある回転歯ともう一方の鉄歯を重ね合わせ、レバーを上下させることで俵を締め上げることができる。深沢農機(株)(兵庫県姫路市保城町)製造	当館 (大垣哲男氏)
95	堀川敬周画《東帯天神座像》	江戸後期	1	122.5×49.0	高岡初の町絵師といわれる堀川敬周が描いた東帯姿の天神(菅原道真)座像。堀川敬周(1789頃～1858)は、高岡堀上町出身。天保・弘化年間を中心に活躍、初期高岡画壇の礎を築いた。山水・花鳥・人物画などあらゆる画題を修得し、多くの作品を残した。一方で、漢詩人・大窪詩仏など多くの文人墨客らと親交をもち、洒落な俳画や風俗画も描いた。また多数の弟子も育てた	当館 (当館、高岡源平町・神初豊一氏)
96	溪斎英泉画《牛乗天神図》	江戸末期	1	64.9×20.3	版元は江戸の和泉屋市兵衛(甘泉堂)。資料左上には「宵のま(間)は 都の空にすみぬらむ/心つくしの有あけの月」とあり、菅原道真が左遷され、はじめて博多へ上陸したときに詠んだ歌であると伝わる。溪斎英泉(1790～1848)は浮世絵師。姓は池田、名は義信、号は一筆庵・無名翁など。遊女や美人画を得意とし、多くの浮世絵や草双紙(絵入りの娯楽本)の挿絵を描いた	当館
97	天神・隨身図	明治期	1	71.2×24.0	木版多色刷(錦絵)の作品。「天満宮」と書かれ、その下に梅鉢文を配した東帯姿の天神と隨身、狛犬が描かれた図。幕末以降普及した化学染料「アニリン」(洋紅)がみられる。版元の「山甚」の印が捺されており、江戸(東京)の山城屋甚兵衛(山泉堂)とわかる	当館
98	写真「天神様の前で」	昭和42年(1967)	1	—	高岡(富山県西部)では、昔から長男が生まれると母親の実家から天神画像が贈られ、毎年12月25日～1月25日まで飾られる。子どもの無病息災・学業上達を祈る	【高】
99	天神堂		1	幅42.5×奥行36.9×高61.5	天神堂とは神社のミニチュア版。本殿の神座には天神座像が安置されており、外には隨身の右大臣(向かって左)と左大臣(向かって右)が控える。高岡では、天神堂は裕福な家で年末年始に飾られたという。金沢の天神堂は、参道もある小型のものである	当館 (越中総鎮守一宮射水神社)
100	富山土人形 各種		31	—	富山土人形で作られた天神人形、隨身、狛犬、灯籠など。富山土人形は、嘉永年間(1848～54)富山十代藩主・前田利保が、名古屋の陶工・加藤家の陶器職人・広瀬秀信を富山に呼び、千歳御殿に窯を築き、子・安次郎が天神臥牛を焼いて献上したのが始まりとされる	当館 (越中総鎮守一宮射水神社)

101	井波彫刻 野村清雲作《天神木像》		1	幅36.2×奥行27.0×高33.0	国の伝統的工芸品「井波彫刻」の天神木像。胸には梅鉢文が彫られ、手には笏を持ち、腰には刀を携える。野村清雲(1888～1973)は富山県南砺市(旧井波町)の彫刻家。本名は清太郎。初代・加茂辰蔵に師事。野村家初代となる。2代の一宝ら5人の子を含め20数人の弟子を育て、井波彫刻を盛り上げた。井波の天神木像は昭和中期以降徐々に普及した	当館 (越中総鎮守一宮射水神社)
102	本保兵蔵作「天神木像」	明治21年(1888)	1	幅34.9×奥行20.5×高34.3	高岡源平町の仏師・本保兵蔵作の天神木像。細かい部分まで作りこまれた彫刻のうえに、黒漆や金箔が鮮やかに残り、髭や袴の模様、刀の細部まで表現されている。本保兵蔵(?～1886)は高岡で江戸末期から昭和初期にかけて栄えた仏師一族の出身。本保屋は仏像・仏具以外にも、神社(祭礼)に関する神輿や獅子頭、天神像のほか、置物や衝立なども幅広く手がけた	当館

※所蔵先の写真の出典は、【氷】『氷見市史』(氷見市役所, 1963年)、【中】『中田町誌』(中田町誌編纂委員会, 1968年)、【写】『写真でみる農具・民具』(農林統計協会, 1988年)、【台】『台所用具の近代史』(有斐閣, 1997年)、【イ】『イラストで見るモノのうつりかわり 日本の生活道具百科』(河出書房新社, 1998年)、【昭】『昭和のくらし博物館』(河出書房新社, 2000年)、【い】『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』(柏書房, 2004年)、【高】『保存版ふるさと高岡』(郷土出版社, 2009年)を示します。

※写真・図・複数資料の寸法は割愛。



チラシ・ポスター



展示風景

## 2 教育・普及活動

### (1) 郷土学習講座（全3講）

郷土の歴史・文化など幅広い分野について紹介し、理解を深めていただく連続講座を開催した。

#### 〔第1講〕「前田利長菩提所の成立過程」

日 時：令和元年7月27日（土） 午後2時～3時30分

会 場：新館3階講堂（以下同）

講 師：萩原大輔氏（富山市郷土博物館主任学芸員）

聴講者：87人

要 旨：高岡で前田利長菩提所と言え、墓所・高岡御廟、墓守寺・繁久寺、菩提寺・瑞龍寺だが、高岡以外にも高野山、長齡寺、野田山にそれぞれ利長供養墓が設けられている。前田利長は1614年5月20日、高岡城で逝去し、法円寺で荼毘にふされたとされている。法円寺と



萩原大輔氏

は瑞龍寺の前身となる寺院で、金沢宝円寺、越前宝円寺ともゆかりがある。利長の法名は「瑞龍院殿聖山英賢大居士」で、位牌は高岡宝円寺に安置された。のちに宝円寺は「瑞龍院」と呼ばれるようになり、このことから、宝円寺がまさしく利長の位牌を置く菩提寺に定められた事実を示しているといえる（ちなみに17世紀の史料では「宝円寺」と記されており、「法円寺」と記す史料は18世紀以降のものがほとんどである）。1638年には本多政重、横山長知、前田直之、長連頼、奥村榮政ら「加賀八家」クラスの家臣たちによる石灯籠の寄進があり、1644年以降になると、利長の菩提寺である瑞龍院には3代・前田利常による書画・墨蹟・美術工芸品などの寄進が度々行われるようになる。これは、瑞龍院が利長の菩提所・霊牌所であると認識されていたからこそと言えるが、利長の33回忌にあたる1646年前後に寄進が集中していることから、4代・前田光高が在位わずか5年、31歳の若さで1645年に急逝したことも関係しているのではないかと推測される。また、1653年から高岡御廟の新造、墓守寺・鎮守堂の整備、近隣寺地を召し上げての瑞龍院の増築も始まり、1657年に塔頭、1659年に仏殿が完成し、利長の50回忌法要が挙行された1663年には茅葺工事をのぞき造営がほぼ完了している。この間、少なくとも1660年までに「瑞龍寺」という寺号が定着したと思われる。

この大規模な整備により、中世的な武家菩提寺「瑞龍院」から、近世的な武家菩提寺「瑞龍寺」へと転成したといえるが、私案として、近世的な武家菩提寺とは、①領主の権威を示す伽藍整備（中世における菩提寺は小刹で、菩提追善が主な役割であった）、②墓所と墓守寺が別にある（中世では墓守寺が菩提寺も兼ねている場合が一般的であった）、③触頭寺院として大名領（藩）内の寺院統制の役割を担うことが特質としてあげられていた。

#### 〔第2講〕「慶長4・5年の前田利長」

日 時：令和元年8月31日（土） 午後2時～3時30分

講 師：見瀬和雄氏（金沢学院大学名誉教授）

聴講者：101人

要 旨：慶長4年(1599)閏3月に没した父利家の遺言により、利家の死後3年間は金沢に帰還してはならないと言われ、含められていた利長だが、前年に家督を継いでから一度も国元に帰っていないという理由で徳川家康によって帰国を勧められ、同年8月に金沢へと帰った。「板坂卜斎覚書」によれば、慶長4年9月、大坂城へ出向く家



見瀬和雄氏

康を討とうとする計画が存在すると、増田長盛が家康に密告している。これが加賀征伐の噂が流れた発端とされているが、利長が首謀者との記述はなく、無論利長もそのような計画は企んでいなかった。つまり、家康は増田の讒言など信じておらず、むしろ利長を中央政界から排除する大義名分として巧妙に利用したと考えられる。道中に関所を設けられて上洛を阻まれた利長は、家臣を派遣して家康に弁明した。その結果、母芳春院を江戸へ人質として差し出すことで一応の落着を見、利長は家康の麾下に入った。

慶長5年(1600)、自ら会津征伐に赴いた家康が上方を空けた隙をついて、石田三成が大谷吉継と謀り、家康を除くために挙兵した。その頃、会津征伐の出陣命令を受けていた利長は、石田方に付いた小松の丹羽長重と対立することとなる。当初は小松城を攻めるつもりだったが、予定を変更して石田方に付く大聖寺城の山口宗永を攻撃し、これを破った(大聖寺城の戦い)。しかしその後、利長は越前の金津辺まで進軍したところで急に兵を返している。これは、吉継が金沢を攻撃するという情報を得た利長が吉継の策略に嵌まり、金沢城防衛を優先して兵を引いたとみるのが適当であろう。そしてこの金沢への帰還途上、小松の東郊浅井村を通過する際に長重との間で浅井暁の戦いが起きている。初めは小松勢が優勢だったが、城から大きく踏み出したところを狙って利長が進撃したことから、長重は急遽城に撤退し戦いは終わった。戦後、大坂で行われた論功行賞において利長は加越能120万石を与えられ、外様最大の大々名となる。しかし、利長の最大の関心事である母芳春院の処遇については何の沙汰もなかった。利長の戦いはこれで終わりとはいかず、徳川氏の圧力の下で前田氏の存続を図るといふ、いわば冷戦が続くこととなる。

### 〔第3講〕「前田利長の書状を読む」

日時：令和元年9月28日(土) 午後2時～3時30分

講師：大西泰正氏(石川県金沢城調査研究所所員)

聴講者：65人

要旨：利長の発給文書は1,600通程あり同時代の宇喜多秀家の250通と比べると極めて多く、これらの発給文書は16世紀末～17世紀初頭の加越能の政治権の実態解明に不可欠な史料である。戦前は「加賀藩」の偉大な藩主として利家、利長を英雄視していたが戦後になると検地や在地支配といった社会経済史的事績へと変化していった。政治史的なアプローチ、人物論を検討し、豊臣大名としての利家、利長を信頼できる史料から事実関係を立ち上げなおす必要がある。それは『加賀藩史料』依存からの脱却であり、「加賀百万石」伝説とでも呼ぶべき史観の払拭である。

豊富に残された利長発給文書の分析をすると、現時点で確認できる最古史料天正11年(1583)～関ヶ原(1600)まで16%あり、関ヶ原～死去まで84%を占めている。また「はひ」「ひ」という略式署名が34%あり、断簡に値するものまで残存している。豊富に残された理由として利長書状は御親翰として珍重され断簡零墨の類まで残したことがあげられる。

天正12～13年頃の前田土佐守家資料館蔵「前田利長書状巻」からは菓子贈呈の礼や来訪願いといった他愛もない書状であるが、文書には「金沢」の文字があり、「金沢」の名称について考察することができる。また大老に昇格した時期、権中納言に昇進した時期をとっても通説と相違があり、所謂加賀征伐も謀叛の嫌疑をかけられ芳春院が人質となって江戸へ赴き家康と和解する通説があるが確実な資料はない。

利長文書1,600通のうち慶長4～5年の文書が前田家本体の中に欠落しており、その間はちょうど徳川方と関係が悪化した時期と重なる。しかしながら慶長5年関ヶ原合戦の頃、徳川方と友好になると再び利長文書が存在する。豊富に残された利長発給文書の分析は加越能地域の実態解明に不可欠な史料であり、事実関係を立ち上げなおす作業に必要な文書である。



大西泰正氏

## (2) 展示説明会

### ① 特別展 展示説明会（全3回）

〔第1回〕

日 時：令和元年8月3日（土）

参加者：21人

〔第2回〕

日 時：令和元年9月7日（土）

参加者：22人

〔第3回〕

日 時：令和元年10月5日（土）

参加者：15人

### ② 館蔵品展 展示説明会（全3回）

※新型コロナウイルス感染症拡大のため、  
第3回(3月21日)は中止した。

〔第1回〕

日 時：平成31年4月20日（土）

参加者：9人

〔第2回〕

日 時：令和2年2月1日（土）

参加者：11人



展示説明会



館蔵品展「昔の道具とくらし」展示説明会

## (3) 古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）

当館では、高岡に関する古文書を多数収集・保管している。高岡の歴史や古文書に関する市民への理解を深めるため実施した。全6講の連続講座。受講者累計256人。

〔第1講〕

日 時：令和元年9月12日（木） 午後2時～3時30分（以下同）

会 場：新館3階講堂（以下同）

講 師：仁ヶ竹副主幹学芸員（以下同）

受講者：46人

〔第2講〕

日 時：令和元年9月26日（木）

受講者：45人

〔第3講〕

日 時：令和元年10月10日（木）

受講者：41人

〔第4講〕

日 時：令和元年10月24日（木）

受講者：44人



古文書講座

〔第5講〕

日 時：令和元年11月7日（木）

受講者：38人

〔第6講〕

日 時：令和元年11月21日（木）

受講者：42人

#### （4）ワークショップ等

① 屋上開放「古城公園展望台」（桜の満開時期に合わせて開催）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月20日（金・祝）～29日（日）は中止した。

・日 時：平成31年3月30日（土）～4月7日（日）

（3/31、4/2は雨天中止。3/30、4/5は天候により時間短縮あり）

・時 間：午前10時～午後3時

・会 場：新館屋上

・来場者数：1,481人（6日間26時間の累計）

〔各種イベントの開催〕

・高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」による屋上解説

3月30日（土）、4月5日（金）～6日（土）※時間中随時

・高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」“さくらカフェ”

4月5日（金）午前11時～午後2時 コーヒー（お菓子付）販売



屋上開放

② 呈茶の会「松聲庵-博物館で抹茶を楽しみませんか-」(春)

- ・日 時：平成31年4月6日(土) 午前10時～午後3時
- ・会 場：当館茶室「松聲庵」及び掛待合(以下同)
- ・協 力：玉木宗恵氏(茶道裏千家淡交会高岡支部参与)  
含め社中の方 計12名  
近藤宗美氏・西宗範氏・小嵐晴美氏  
〔誘導・受付等〕
- ・参加者：297人



呈茶の会(春)

③ 呈茶の会「松聲庵-博物館で抹茶を楽しみませんか-」(秋)

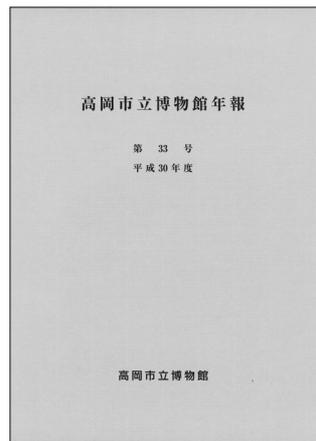
- ・日 時：令和元年11月2日(土) 午前10時～午後3時
- ・協 力：新田宗美氏(茶道裏千家正教授)含め  
社中の方計8名  
近藤宗美氏・西宗範氏・小嵐晴美氏  
〔誘導・受付等〕
- ・参加者：240人



呈茶の会(秋)

(5) 刊行物の発行

- ・特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」パンフレット(A4判、16頁、1,000部)
- ・機関誌『博物館だより』第26号(A4判、4頁、3,000部)
- ・年 報『高岡市立博物館年報』第33号(平成30年度)(A4判、55頁、200部)



『高岡市立博物館年報』  
第33号



『博物館だより』第26号

(6) 団体見学、展示解説対応

団体見学 計92件（計2,859人）、うち展示解説22回

〔団体一覧〕

月日	団体名	人数	展示解説
4月3日	高岡市役所人事課職員研修	16人	1回
4日	阪急交通社	80人	
	富山新聞	20人	
5日	比奈の会	15人	
	クラブツーリズム	41人	
	阪急交通社	23人	
6日	三協アルミ OB 協友会	53人	
	やまたちばな	25人	
	阪急交通社	40人	
9日	クラブツーリズム	81人	
10日	阪急交通社	68人	
	クラブツーリズム	42人	
11日	クラブツーリズム	25人	
	クラブツーリズム	28人	
	クラブツーリズム	10人	
	トラピックス	20人	
	阪急交通社	20人	
12日	阪急交通社	20人	
	阪急交通社	15人	
14日	あいの風	8人	
	読売旅行	40人	
	阪急交通社	50人	
	阪急交通社	40人	
16日	阪急交通社	26人	
	クラブツーリズム	67人	
17日	クラブツーリズム	15人	
18日	クラブツーリズム	42人	
20日	クラブツーリズム	75人	
21日	上牧野いきいきサロン	15人	1回
5月8日	高岡市立戸出中学校1年生	32人	
9日	高岡市立福岡中学校1年生	116人	4回
10日	神戸新聞旅行社	25人	1回
17日	クラブツーリズム	23人	
28日	不遠寺会	21人	1回
30日	富山市立東部中学校	9人	
	氷見市阿尾保育園	28人	
	氷見市宇波保育園	8人	
31日	高岡市立南条小学校3年生	51人	
6月6日	富山市立呉羽中学校	57人	
9日	ビュートラベルサービス	18人	
16日	山梨郷土研究会	26人	1回
21日	高岡市立牧野小学校5年生	91人	2回
7月6日	日本100名城	18人	
9日	金沢市横町町内会	21人	
10日	日本100名城を巡る旅	25人	
12日	ジョブステーションさくら	47人	1回
	高岡市立国吉小学校3年生	16人	

月日	団体名	人数	展示解説
20日	立教池袋中学校・高等学校	24人	1回
	クラブツーリズム	11人	
8月6日	富山県通訳案内士協会	9人	1回
20日	砺波青少年自然の家	27人	
	砺波青少年自然の家	30人	
21日	高岡市美術館実習生	7人	
22日	クラブツーリズム	16人	
25日	100名城を訪ねる	18人	
27日	100名城を訪ねる	37人	
31日	100名城を巡る旅	70人	
9月1日	サンケイツアーズ	48人	
5日	事業団所属長会議	10人	1回
15日	金沢城兼六園研究会	21人	
19日	能町公民館	21人	1回
	志賀町文化協会	30人	1回
26日	100名城を巡る旅	38人	
	富山市立興南中学校1年生	43人	
29日	クラブツーリズム	39人	
10月4日	刈谷市文化財保護審議会	5人	1回
9日	金沢市小將町中学校2年生	40人	
10日	高岡市彫刻ガイドツアー	11人	
13日	石川県金沢市松ヶ枝公民館	24人	
24日	高岡市立牧野小学校6年生	21人	
26日	古城公園を愛する会	29人	
	秋の富山大周遊	38人	
31日	富山県下大周遊	37人	
11月1日	阪急トラピック名古屋	18人	
2日	阪急トラピック名古屋	35人	
4日	クラブツーリズム	32人	
6日	阪急交通社	33人	
7日	博労老人クラブ	4人	
8日	砺波市立庄東小学校2年生	46人	
9日	阪急交通社	39人	
13日	高岡市立成美小学校3年生	36人	
15日	クラブツーリズム	11人	1回
16日	クラブツーリズム	36人	
17日	ボーイスカウト高岡第21団カブ隊	17人	
19日	阪急交通社	37人	
	阪急交通社	18人	
22日	読売旅行	33人	
30日	射水市立大門中学校美術部	19人	
12月1日	阪急交通社	13人	
2月4日	高岡市立西条小学校3年生	49人	2回
7日	特別養護老人ホームはるかぜ	9人	
20日	ふれあいサロンたんぽぽ	18人	1回
	計92件	2,859人	22回

(7) 他団体への協力

① 講師の派遣 計19件

[講師派遣一覧]

月日	依頼者 会合名	演題・内容	講師
4月2日	公益財団法人高岡青年会議所 4月度オープン例会「町民魂を呼び覚ませ！ ～たかおか開町410周年の今、再び！～」	「町民が作り上げてきた高岡開町 410年の歴史」	仁ヶ竹副主幹学芸員
4月4日・5日・ 9日・10日	東京芸術大学社会連携センター・高岡市産 業企画課 「甦るべき明治～維新を支えた下関の世界～」展	展覧会オープニングイベントでの 展示説明・会期中のアテンド	仁ヶ竹副主幹学芸員
4月21日放送	富山エフエム放送(株) (番組出演)	『Takaoka'n Radio』 ・御車山について	仁ヶ竹副主幹学芸員
4月、11月放送	北日本放送(株) (番組出演)	『このまちと生きる～ 文化創造都市高岡～』 ・#2 御車山祭 ・#16 高岡城	仁ヶ竹副主幹学芸員
5月6日～19日、12月 2日～令和2年1月5 日、令和2年1月20日 ～2月9日放送	高岡ケーブルネットワーク(株) (番組出演)	『歴史都市 高岡ふしぎ帖』 ・シーズン11「守山城へ行こう編(第1話)」 ・シーズン13「利長と利常編(第1・4話)」	仁ヶ竹副主幹学芸員
5月23日	定塚地域生涯学習推進協議会 定塚セミナー講演会	「歴史都市・日本遺産 高岡の魅力」	仁ヶ竹副主幹学芸員
5月25日	富山県民生涯学習カレッジ砺波地区セン ター 2019年度前期 ふるさと探求講座(専門) -ふるさとの偉人-	「東西美術交流に尽くした越中人 -林忠正-	仁ヶ竹副主幹学芸員
5月26日	中田地域生涯学習推進協議会 講演会	「再発見された中田についての前 田利長書状」	仁ヶ竹副主幹学芸員
8月4日	宮脇町一丁目自治会 地蔵尊祭 講演会	「前田利長書状展のみどころ」	仁ヶ竹副主幹学芸員
8月19日～25日、 令和2年3月30日～ 4月5日放送	高岡ケーブルネットワーク(株) (番組出演)	『もっと！ホット！高岡』 ・特別展「高岡開町410年記念 前田 利長書状展」 ・館藏品展「昔の道具とくらし」	宇川主任学芸員
8月24日	高岡市立太田公民館・太田雨晴観光協会・ 太田校下婦人会 太田の歴史と文化を語る夕べ in 武田家	「国泰寺と山岡鉄舟について」	仁ヶ竹副主幹学芸員
9月13日	古里研究会 古里を語る集い「日蓮宗の曼荼羅の絵解き」	「吉久に伝わる法華曼荼羅」	仁ヶ竹副主幹学芸員
10月31日	西藤平蔵大万雑会 講演会	「古文書にみる江戸時代」	仁ヶ竹副主幹学芸員
11月13日	南砺市生涯学習スポーツ課 緑の里講座	「歴史都市・日本遺産 高岡の魅力」	仁ヶ竹副主幹学芸員
11月15日	伏木校下公民館連絡協議会・高岡市立伏木公民館 有機ブロック公民館研修会	「古文書にみる伏木」	仁ヶ竹副主幹学芸員
12月19日	高岡市中心市街地賑わい創出会議 勉強会	「高岡御旅屋の歴史」	仁ヶ竹副主幹学芸員
令和2年1月17日、31 日、2月14日、28日	高岡市福岡歴史民俗資料館 古文書講座	古文書講座の講師	仁ヶ竹副主幹学芸員
令和2年2月6日	高岡南ライオンズクラブ 月例会ゲストスピーチ	「高岡城跡の歴史的価値について」	仁ヶ竹副主幹学芸員
令和2年2月19日・3 月上旬放送	NHK 富山放送局 (番組出演)	『ニュース富山人』 ・富山の宝／海越しの立山連峰の 歴史は	仁ヶ竹副主幹学芸員

② 委員の派遣 計5件（うち会合5回）

〔富山県公文書館〕平成31年度富山県公文書館古文書調査員（平成18年度より継続。仁ヶ竹副主幹学芸員／①7月18日 ②令和2年2月27日）

〔越中アートフェスタ実行委員会〕「美の祭典 越中アートフェスタ2019」審査員（山本総括主査／①11月14日 ②11月16日 ③11月27日）

〔高岡市中心市街地賑わい創出会議〕高岡市中心市街地賑わい創出実行委員（仁ヶ竹副主幹学芸員／12月9日）

〔富山市郷土博物館〕富山市郷土博物館協議会委員（山本総括主査／令和2年2月25日）

〔富山県水墨美術館〕富山県水墨美術館収蔵美術品評価委員（山本総括主査／令和2年3月19日）

③出演 計6件

〔富山エフエム放送株〕『Takaoka'n Radio』（ラジオ）「御車山について」〔4月21日／仁ヶ竹副主幹学芸員（以下同）〕

〔北日本放送株〕『このまちと生きる～文化創造都市高岡～』〔平成31年4月（#2 御車山祭り）、令和元年11月（#16 高岡城）〕

〔高岡ケーブルネットワーク株〕『歴史都市 高岡ふしぎ帖』「シーズン11・守山城へ行こう編」〔第1話：5月6日～19日〕、「シーズン13・利長と利常編」〔第1話：12月2日～令和2年1月5日／第4話：令和2年1月20日～2月9日〕

〔NHK富山〕ニュース富山人「富山の宝／海越しの立山連峰の歴史は」（令和2年2月19日、3月上旬）

〔高岡ケーブルネットワーク株〕『もっと！ホット！高岡』 特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」〔8月19日～25日／宇川主任学芸員（以下同）〕

〔高岡ケーブルネットワーク株〕『もっと！ホット！高岡』 館蔵品展「昔の道具とくらし」（令和2年3月30日～4月5日）

④ 寄稿 計2件

・北日本新聞紙面連載「万機公論-つなぐ-」（論題「高岡と縁深い渋沢栄一」／掲載日：5月8日／仁ヶ竹副主幹学芸員）

・富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会『富史料協会報』第19号巻頭言（論題「高岡市立博物館の古文書事業」／発行日：令和2年3月2日／仁ヶ竹副主幹学芸員）

⑤ 監修 計7件

〔高岡市みなと振興課〕「市民と市政」（令和元年7月号）特集記事「伏木港開港120周年」／仁ヶ竹副主幹学芸員（以下同）

〔高岡市みなと振興課〕伏木港開港120周年記念 紙芝居「藤井能三」

〔北日本新聞社〕紙面「西部ふしぎ散歩（1）高岡古城公園」

〔高岡市日本遺産推進協議会〕『TAKAOKA：高岡発瓦版：伏木・北前船編』

〔北日本新聞社〕紙面「西部ふしぎ散歩（8）前田利長墓所」

〔高岡市教育委員会学校教育課〕市小学校3・4年生用副読本（高峰讓吉）

〔高岡市・高岡市商工会議所〕高峰讓吉別邸「松楓殿」再現展示、再現記念特別展（令和2年3月27～30日／於・高岡商工ビル）

⑥ 博物館実習生の受け入れ

・ 期 間：令和元年9月14日（土）～9月28日（土）

※大学の規定に応じて、期間中で5日間、8日間それぞれ実施

・ 実習生：2人（新潟大学・富山大学）

・ 内 容：資料取扱い、資料調査・整理、資料撮影、会場監視等

⑦ 資料貸出 計7件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	北前船関係資料	12件23点	伏木観光推進センター	高岡市伏木北前船資料館で展示（会期：H31.4/1～R2.3/31）【継続】
2	帳場格子、大福帳等	3点	土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会	高岡市土蔵造りのまち資料館で展示（会期：H31.4/1～R2.3/31）【継続】
3	渾天儀（高岡市指定文化財）	1点	射水市新湊博物館	「夜空を見上げて—古墳時代から江戸時代まで—」展（会期：R1.6/14～9/22）
4	越中国鉄物細工之図等	8件	高岡市美術館	「明治金工の威風—高岡の名品、同時代の名工」展（会期：R1.9/20～10/20）
5	高峰譲吉関係資料（当館蔵・高峰譲吉博士顕彰会蔵）	13件13点	高峰譲吉博士顕彰会	高峰譲吉博士移動資料展（R1.10/13 高岡市立二塚小学校、10/20 高岡市立高岡西部中学校）
6	宇多刀等	6口	高岡市福岡歴史民俗資料館	「瑞龍寺奉納刀“家重”と北陸の名刀たち」展（会期：R1.10/12～12/1）
7	タカダアスターゼ看板、高岡彫刻塗「二匹鯛」	3点	高峰譲吉博士顕彰委員会事務局（高岡市教育委員会教育総務課）	高峰譲吉「松楓殿」再現記念特別展（会期：R2.3/26～3/30）

⑧ 写真提供 計50件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	大橋家下図「草花文象嵌花瓶」(第160号)	7点	個人	納富介次郎と美術教育のため
2	田舟	1点	昭和株式会社	姫路市天満菅原土地区画整理組合の完工記念誌(R2.5月中旬～6月中旬発行予定)
3	鳳凰塔(宮城方位指標)	1点	株式会社富山新聞社	富山新聞紙面(H31.4/24)
4	「伏木港」等、大正期の蒸気船関連写真	12点	東映株式会社東京撮影所	映画「大コメ騒動」製作の際の美術資料、及び合成作成のための資料
5	阿野実政筆「聚楽行幸記」(個人蔵)	1点	個人	令和元年度日本近世文学会春季大会(R1.6/9。於・鶴見大学)での発表資料
6	守山城跡(武波勝平撮影写真)	1点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン11「守山城へ行く編(第3話・第4話)」(R1.6/3～6/30放送)
7	武波勝平撮影写真「大和高岡店の店内」等、高岡大和関連写真	5件14点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	大和高岡店閉店特別番組
8	渾天儀(江戸後期/市文)	1点	射水市新湊博物館	「夜空を見上げて—古墳時代から江戸時代まで—」展(会期：R1.6/28～9/8)
9	「射水郡分記録等抜書」、利長書状(本陽寺蔵)	2点	個人	調査研究
10	藤井能三肖像(2点)、佐々木平兵衛肖像、堀田勝文肖像	3件4点	高岡市みなと振興課	「市民と市政」(7月号)
11	ホーロー看板「コカ・コーラ」	1点	MBS企画	テレビ大阪「大阪ラバー」(R1.7/13放送)
12	「高岡古城公園指定請願書(写)」、付属図	1件4点	高岡市立志貴野中学校	「とやまの誇る先賢たち」展(R1.11月～R3.11月/於・富山県教育記念館)
13	大関・階ヶ嶽龍右衛門「明荷」	1件4点	株式会社ベースボールマガジン社	日本相撲協会機関紙 雑誌『相撲』7月号(富山出身力士特集)
14	高峰譲吉肖像(スーツ姿)	1点	株式会社東京サウンドプロダクション	テレビ朝日「秘湯ロマン」(R1.8/25放送)
15	塩崎家資料写真(9点)、金森家資料(3点)、角羽家資料(3点)、当館資料(2点)	17点	高岡市美術館	「明治金工の威風—高岡の名品、同時代の名工」展(会期：R1.9/20～10/20)の広報印刷物

16	越中高岡古城図「大岡」(金沢市立玉川図書館近世史料館蔵)	1点	株式会社北日本新聞社	北日本新聞紙面(R1.7/27.特集「西部ふしぎ散歩①高岡古城公園」)
17	高岡古城公園関連古写真、絵葉書等	34点	高岡市総務課	高岡市市政施行130年記念式典(R1.10/14)での当市の移り変わりを紹介するスライドショー
18	射水郡能町村大字吉久新村地引図(大正5.高野)、吉久御蔵出船御米等積出堀川并土居川除之分間絵図(文化2年荒木家)	2件7点	高岡市教育委員会生涯学習・文化財課(委託先:合同会社AMANE)	吉久地区の都市史基礎調査(高岡市教委よりの委託事業)
19	大和高岡店関連写真	6点	株式会社富山新聞社	富山新聞紙面(R1.8/26付)
20	機械化された鋳物工場(大正3年)	1点	株式会社日経映像	テレビ東京系列「カンブリア宮殿」(R1.9/12放送/ゲスト:榎能作 能作克治社長)
21	鳥山敬二郎肖像等、写真等関係資料	14点	高岡市立志貴野中学校	県教委「とやまの誇る先賢たち」展(R1.11月～R3.11月/於:県教育記念館)
22	改井徳寛筆《バラ》等	5点	一般社団法人新構造社	「何徳来と日本美術団体・新構造社展」(会期:R1.12/11～12/29/於:台湾新竹市文化局)
23	五十嵐篤好『言霊真澄鏡 壺』(写本)等	2点	個人	言霊学の系譜をたどる史料としての研究
24	高岡産業博覧会リーフレット	1点	株式会社アキデザイン	高岡古城公園グッズ素材
25	市山雅利画、古岡英明氏案「八世紀末の越中国府とその近傍(推定図)」	1点	富山県民生涯学習カレッジ	「とやまの川の物語(仮)」(DVD、BD、HP(とやまデジタル映像ライブラリー))(R1.10/31発行)
26	地籍図「射水郡二塚村大字下黒田新村」	1件5点	個人	研究資料
27	「前田利長在城時の高岡町」、「江戸時代末期の高岡町」	2点	高岡市産業振興部商業雇用課	「第3回リノベーションスクール@高岡」(R1.10/11～10/13)の資料
28	「前田利長在城時の高岡町」、「江戸時代末期の高岡町」	2点	個人	調査研究
29	楽譜「高岡市民の歌」、「夕日」(『最新学校唱歌遊戯第1章』掲載)	2点	個人	調査研究
30	高峰讓吉肖像(大正期/肘掛椅子に座す)	1点	NHK富山放送局	NHK総合テレビ「松楓殿」関連のニュース(R1.11/4日放送)
31	高岡市内の古写真(明治～昭和期)	13点	博労地区老人クラブ連合会	博労地区老人クラブ連合会創立50年記念誌(R2.11/12発行)
32	高峰讓吉肖像(大正期/肘掛椅子に座す)	1点	NHK富山放送局	NHK総合テレビ ニュース①「松楓殿 調度品の寄贈者会見」(R1.11/11 18:10～放送) / ②「高峰讓吉講演会」(11/18 18:10～放送)
33	「越中伏木港図」、「伏木港本町・堀田善右衛門商店」等	7件9点	有限会社エビファニーワークス	タブロイド「高岡発瓦版」(高岡市/R2.2月発行)
34	「高岡城下町鳥瞰図」(市山雅利氏画)、前田利家画像(光禅寺蔵)	2点	富山テレビ放送	BBT特別番組「フルサタ！新春SP 身近なギモンにTHE！潜入(高岡古城公園のお濠を潜入調査編)」(R2.1/2放送)
35	国泰寺山門指図(1/20)等	3件5点	太田雨晴観光協会	資料「太田の栞(仮)」(R1.12/28発行)
36	鉛買い幽霊図(金沢市・道入寺蔵)	1点	協同組合銀座百店会	『銀座百点(2月号)』(R2.1/25発行)
37	「前田利長在城時の高岡町」、「江戸時代末期の高岡町」	2点	個人	日本地名研究所「地名と風土(第14号)」(R2.3/31発行)
38	「高岡・伏木米島先」、「出船入船でにぎわう伏木港」(『高岡開町370年市制施行90周年記念写真集』より)	2点	高岡市立野村小学校	県教委「2020年度版 きょう土のすがた」(R2.3/31発行)
39	高岡売薬版木	1点	創造広場「アクトランド」(高知県香南市)	企画展「坂本竜馬の生きた時代」(会期:R2.2/1～5/17/於:龍馬歴史館)での展示図版及びキャプション
40	「高岡中古之図」、高岡城跡航空写真(平成18年撮影)	2点	高岡ロータリークラブ	『利長公シンポジウムⅡ-⑨「高岡の魅力再発見」』(R2.4/25開催)にかかる広報印刷物
41	後藤分銅	1点	日本テレビ放送網株式会社	日本テレビ「クイズ！あなたは小学5年生より賢いの？」(R2.3/13放送)
42	「五十嵐篤好画像」(部分)等	4件4点	高岡市立東五位小学校	高岡市立東五位小学校閉校記念誌(東五位小学校PTA発行)
43	写真「帆船と蒸気船」	1点	富山県教育委員会県立学校課	高校生の郷土史・日本史補助教材(R2.3/31発行)
44	『中越商工便覧』	1件10点	株式会社東京ビデオセンター	NHK・BSプレミアム「新日本風土記・北前船の贈り物」(R2.4/10 放送)

45	高岡繁昌双六(部分)	1件1点	平米校下民生委員	社会福祉協議会平米校下機関紙「福祉おおとり」(R2.3/31発行予定)
46	絵葉書「高岡御車山」	2件14点	高岡ケーブルテレビネットワーク株式会社	令和2年5月1日に開かれる高岡御車山祭の生中継に使用(予定)
47	漁師弁当	1点	一般財団法人法政大学出版局	権代三重子著『日本のお弁当文化』(R2.4月発行予定)
48	越中国高岡関野神社祭礼繁昌略図附録(明治16年)	1件2点	高岡ケーブルテレビネットワーク(株)	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン14「御車山Q&A編」(R2.4/6～19放送)
49	絵葉書「高岡銀行」(棚田書房発行1912～18年)	1点	高岡市産業振興部観光交流課	特設展示「明治期に設立された金融機関一山町に本店を設置した銀行を中心に」(会期:R2.4/1～R3.3/31)
50	高峰譲吉肖像(スーツ姿)	1点	NHK富山放送局	NHK総合テレビ ニュース「高峰譲吉ゆかりの松風殿が一部再現」(R2.4/27・30放送)※東海北陸ニュース4/11放送

⑨ 資料撮影・掲載 計21件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	渋沢栄一書簡(大橋半七郎宛/明治38年1月23日付)	1点	株式会社チューリップテレビ	新紙幣デザイン・渋沢栄一関連ニュース(H31.4/9放送)
2	茶室「松聲庵」外観、庭、掛待合等	1件5点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「ちょいたび～わくわく新名所を探そう～」(R1.5/20～5/26放送)
3	「越中国射水郡高岡町全図」等	3点	個人	高岡の相對請地処理問題調査
4	渾天儀(江戸後期/市文)	1点	射水市新湊博物館	企画展「夜空を見上げて一古墳時代から江戸時代まで」展(会期:R1.6/28～9/8)開催にかかる資料調査
5	渋沢栄一書簡(大橋半七郎宛/明治38年1月23日付)	1点	株式会社北日本新聞社	北日本新聞紙面(H31.4/10付)
6	五代金森小左衛門作《鑄銅三宝像》(明治38年)等	3点	個人	修士論文
7	伏木町新島地区の地図(「伏木地区絵図等資料」)	23点	高岡市管財契約課	土地の地籍調査
8	越中北前船破船荷物分散帳等関係資料	1件5点	個人	修士論文
9	米治一筆《アトリエ風景》	1点	個人	イベント「ミラレ・金屋町」開催のための参考
10	吉久関係資料、堀田家文書等	4件7点	合同会社AMANE	吉久地区の都市史基礎調査(高岡市教委よりの委託事業)
11	高岡銅器下図各種	1括	東京藝術大学美術館教授・黒川廣子	調査研究
12	石釧(桜谷2号墳出土)等	6点	個人	修士論文
13	ポスター「北陸三県合同原子力平和利用大博覧会」、同新聞記事	2点	個人	調査研究
14	「越中国射水郡高岡町図」	1点	個人	調査研究
15	「高岡東部耕地整理組合地区現形図」	1点	高岡市都市創造部都市計画課	地籍調査事業における参考資料
16	「高岡公園指定請願書」(複写)、前田利長肖像(『高岡史料』上巻)	2点	富山テレビ放送	BBT特別番組「フルサタ!新春SP 身近なギモンにTHE! 潜入(高岡古城公園のお濠を潜入調査編)」(R2.1/2放送)
17	国泰寺山門指図(1/20)	1点	山岡鉄舟に学ぶ会	調査研究
18	射水郡二塚村青木家文書	8点	個人	投稿論文
19	絵葉書「越中義経雨晴シ」等	4件4点	NHK富山放送局	NHKニュース番組「ニュース富山人」2/19、「富山の宝スペシャル」(3月13日放送)
20	室崎家関係資料	13件129点	個人	研究
21	手回し轆轤	1点	立命館大学食マネジメント学部 准教授・木村祐樹	研究

#### ⑩ その他の協力

- ・ (公財)日本城郭協会「日本100名城スタンプラリー」(平成19年度～)
- ・ 東京藝術大学「甦るべき明治 ～維新を支えた下関の世界～」展〔4月4日～12日/於・(東京)大手町プレイス〕への協力(展示解説及び資料貸与・展示監修)
- ・ 高岡市教育委員会学校教育課「高岡再発見プログラム8」(スタンプラリー)  
期 間：4月27日(土)～12月16日(月)  
合 計：1,999人
- ・ 高岡市教育委員会学校教育課「ものづくり・デザイン科」にかかる学校への団体解説(5月9日/高岡市立福岡中学校116人)
- ・ 高岡テクノドームへの博物館サテライトギャラリーの実施(平成30年10月1日～)
- ・ 日本伝統職人技術文化研究会制作「高野山金剛峰寺奉納唐櫃」展への協力(4月12日～14日/於・新館1階エントランス/会期中の入館者累計4,190人)
- ・ 高岡ケーブルネットワーク番組『歴史都市 高岡ふしぎ帖』〔シーズン11「守山城へ行こう編」/シーズン13「利長と利常編」〕資料提供・出演
- ・ 高岡商工会議所 令和元年度「藤子・F・不二雄先生ゆかりの地めぐりスタンプラリー」スタンプ設置(7月20日～9月1日)
- ・ 高峰譲吉博士顕彰会「高峰譲吉博士移動資料展」(10月13日:高岡市立二塚小学校/10月20日:高岡市立高岡西部中学校)にかかる高峰譲吉関係資料の貸与・展示監修



日本伝統職人技術文化研究会制作  
「高野山金剛峰寺奉納唐櫃」展

#### (8) レファレンス

高岡の歴史・文化などに関わる照会・回答 141件

#### (9) インターネットによる広報・普及

- ・ ホームページ 年間総アクセス数 218,546件
- ・ 全国の博物館・美術館収蔵資料データベース「文化遺産オンライン」(文化庁運営)への資料情報公開件数 計838件
- ・ 発行済の館報「博物館だより」(26件)、展示解説「博物館ノート」(10件)の公開
- ・ 当館公式ツイッター(フォロワー1,210人、ツイート11,396回)、フェイスブック(投稿3,047回、いいね!2,292件)による広報
- ・ 当館案内リーフレット〔①日本語版 ②英語版 ③中国語(簡体字)版〕の館内配架及びネット公開
- ・ 当館収蔵展示資料の撮影、ネットへの公開を個人利用に限り許可(平成29年2月4日～)
- ・ 当館が所蔵(保管)する一括資料目録のネット公開(令和元年11月～)

### 3 収集・保存活動

#### (1) 購入資料（計45件198点。受入順）

No.	資料名称	数量	分類
1	山崎立山作《高岡御車山文蒔絵パネル》(1955～69年頃)	1	美術
2	大井見太郎作《孔雀鳩文研出蒔絵文庫》(昭和～平成期)	1	美術
3	合田実作《立山文卵殻貼りパネル》(昭和期)	1	美術
4	歌人・古谷雲歩宛葉書帖	114	歴史
5	筏井嘉一書簡(野村泰三宛)	1	歴史
6	筏井嘉一和歌書《兼信先生古稀祝賀》(昭和後期)	1	美術
7	筏井嘉一歌集『荒栲』(甲鳥書林、1940年)	1	歴史
8	筏井嘉一歌集『籬雨莊雜歌』(角川書店、1965年)	1	歴史
9	短歌雑誌『心の花』(1934年)	1	歴史
10	高岡米商会所米預り証(1885～93年/未使用・10石)	1	歴史
11	瑞龍寺18世・閑雲書《応無所住而生其心》(1860年)	1	美術
12	堀川敬周筆《恵比寿図》(江戸後期)	1	美術
13	如意の渡 乗船券類(乗船回数券帖、鹿子浦丸14枚、渡船組合福引券7枚)	22	民俗
14	絵葉書「国宝 高岡山瑞龍寺法堂」(1933～44年)	1	歴史
15	絵葉書「越中ことば番附」	1	歴史
16	絵葉書「射水郡横田西條組合尋常小学校増築記念」(1920年7月15日)	1	歴史
17	越中名勝絵葉書(1933～44年)	5	歴史
18	絵葉書「大納言利長卿の墓」(1900～07年)	1	歴史
19	『大納言利家公御夜話 全』(1759年写)	1	歴史
20	『利家卿夜話』(写本)	1	歴史
21	青地礼幹『加邦録 上中下』(写本)	1	歴史
22	藤田維正『修身指要 卷之上』(金沢益智館版、1882年)	1	歴史
23	『小学修身書 卷之一』(文部省編集局版、1883年)	1	歴史
24	山県悌三郎『小学国文読本 卷之六』(文学社版、1892年)	1	歴史
25	三輪鑿蔵『明治新女用文大成 上巻』(吉岡平助版、1882年)	1	歴史
26	小宮水心『習字兼用 実用手紙之文』(立川文明堂版、1919年)	1	歴史
27	小宮左文二『習字兼用 手紙之文』(4版/松邑孫吉版、1918年)	1	歴史
28	『自我得仏来』(版本)	1	歴史
29	『伏木港拡張計画案概要』(港湾協会、1934年)	1	歴史
30	富山県高岡市立高岡尋常高等小学校 卒業証書(1896年)	1	歴史
31	筏井竹の門 俳句短冊	1	美術
32	山口花笠 俳句短冊	1	美術
33	絵葉書「高岡古城公園」(高岡塩谷活版印刷所、1907年頃)	1	歴史
34	絵葉書「伏木港全景(棧橋附近に係船の実況)」(1918～32年)	1	歴史
35	絵葉書「伏木港/藤井能三翁銅像」(1922年)	1	歴史
36	絵葉書「伏木市街(一)」(1918～27年)	1	歴史
37	絵葉書「(高岡名所)公園外濠の桜」(1933～44年)	1	歴史
38	絵葉書「高岡公園搦手口の桜」(棚田書房、1907～17年)	1	歴史
39	絵葉書「(高岡名勝)射水神社」(筒井盛華堂、1918～28年)	1	歴史
40	絵葉書「高岡市 上原内科医院の全景」(1918～32年)	1	歴史
41	絵葉書「(高岡)家を訪ねて(二番町所見)」(1933～44年)	1	歴史
42	北陸人造肥料株式会社リーフレット	1	歴史
43	坪井信良編『医事雑誌』(第2～7、9、13～15、17、34号/1873年11月～)	12	歴史
44	「伏木町勢一斑」(1919年)	1	歴史
45	日本海横断航路リーフレット(北陸汽船(株))	1	歴史

## (2) 寄贈資料 (計30件1,524点。受入順。一括資料は仮に100点と計上)

No.	資料名称	数量	分類	寄贈者
1	東芝自動式電気釜(1955年)	1	民俗	有澤康夫氏
2	「高岡発汽車時間表」(越中活版合資会社、1906年4月)	1	民俗	松原一氏
3	俵締め機(深沢農機(株)製造、1955年代以前)	1	民俗	大垣哲男氏
4	坪井信良書簡(玉虫散土宛/辛丑12月31日)	1	歴史	太田久夫氏
5	天正十三年閏八月二十五日付前田利勝判物(二上渡守かた宛)	1	歴史	匿名希望
6	慶長六年九月三日付前田長種判物(二上渡守船頭中宛)	1	歴史	
7	クケダイ(紵台)	1	民俗	匿名希望
8	渋沢栄一書扁額「博施於民而能濟衆」(1918年6月)	1	美術	鎌谷克彦氏
9	佐竹清版画(1978~97年)	34	美術	水上悦子氏
10	射水郡西藤平蔵村文書	(一括)	歴史	西藤平蔵万雑会
11	砺波郡石堤村・浦谷家文書	(一括)	歴史	浦谷守一氏
12	射水郡二塚村・青木家文書	(一括)	歴史	増山貴美子氏
13	蠟型鑄造製作用具(須賀月真工房)	539	民俗	須賀月真氏
14	射水郡佐野村・島家文書ほか	(一括)	歴史	島光男氏
15	年未詳四月四日付前田利光書状(後欠)	1	歴史	匿名希望
16	天正七年十一月十六日付神保氏張知行安堵状(海老坂村藤兵衛宛)	1	歴史	
17	年未詳七月二十八日付奥村伊予守書状(後欠)	1	歴史	
18	年未詳六月二十日付横山英盛書状(海老坂村五兵衛宛)	1	歴史	
19	年未詳二月十一日付横山貴林書状(海老坂村五兵衛宛)	1	歴史	
20	年未詳五月十日付横山貴林書状(海老坂村五兵衛宛)	1	歴史	
21	慶長六年七月七日付横山長知書状(綾子村・加茂村・守山町肝煎中宛)	1	歴史	
22	寛永十四年十一月七日付横山長知年貢免状(氷見庄海老坂村百姓中宛)	1	歴史	
23	〔慶長六年カ〕八月三日付横山長知書状(守山町 小四郎・春四郎・彦左衛門宛)	1	歴史	
24	寛永八年十月二十五日付横山長知免相申付状(海老坂村・宇波村・小坂井村宛)	1	歴史	
25	一分銀、銭拵等 民俗資料	127	歴史	高岡源平町・神初豊一氏
26	神馬記念盃、香合(達磨・白鳥)等 美術資料	6	美術	
27	鍋・釜類、仏具等	23	民俗	匿名希望
28	天神人形、天神堂等	(一括)	民俗	越中総鎮守一宮射水神社
29	射水郡下関村・小竹家文書	(一括)	歴史	小竹源紀氏
30	きらりんびっく富山関連資料	(一括)	民俗	加藤孝文氏

### 収蔵資料分類一覧表

資料別大分類		区分	件数	点数
I 歴史資料	942件9,897点	1. 歴史資料	942件	9,897点
II 民俗資料	1,052件7,310点	1. 衣食住	457件	3,796点
		2. 交通 運輸 通信	49件	65点
		3. 民俗芸能 娯楽 遊戯等	215件	1,720点
		4. 人生儀礼	22件	52点
		5. 交易	98件	303点
		6. 民俗知識	139件	845点
		7. 年中行事	28件	446点
		8. 社会生活	32件	59点
		9. 信仰	12件	24点
III 産業資料	457件7,948点	生産 生業資料	457件	7,948点
IV 美術資料	547件872点	1. 金工	84件	105点
		2. 漆芸	93件	174点
		3. 陶芸	53件	101点
		4. 木竹石工	4件	28点
		5. 染織	5件	5点
		6. 日本画	134件	156点
		7. 洋画・版画	44件	121点
		8. 彫刻	22件	23点
		9. 書	108件	159点
総計	2,998件26,027点		2,998件	26,027点

※平成29年度受け入れ分より、一括資料を100点として計上。

(令和2年3月末現在)

### (3) 保存活動

展示室・収蔵庫等の温湿度管理、裏打・軸装、桐箱作成、中性紙封筒・箱での保存、収蔵庫清掃、害虫侵入対策、二酸化炭素ガスによる資料燻蒸等

## 4 調査・研究活動

- (1) 収蔵資料及び未調査資料の調査整理（調査・整理・登録・撮影・データベース化等）
- (2) 収蔵資料の収集・分類・整理方針にかかる調査研究
- (3) 今後の企画展（特別展・館蔵品展等）、常設展にかかる調査研究
- (4) 各種研究会・研修会、講座等への参加 計5件
  - 〔富山県博物館協会〕平成31年度総会（4月24日）
  - 〔富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会〕令和元年度総会・講演会（5月28日）
  - 〔富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会〕令和元年度視察研修（8月1日）
  - 〔（公財）高岡市民文化振興事業団〕救命講習会（8月7日）
  - 〔奈良文化財研究所〕令和元年度文化財担当者専門研修「文化財デジタルアーカイブ課程」（令和2年1月20日～24日）
- (5) 収蔵資料情報のデジタル化による資料管理（デジタル・アーカイブの推進）
- (6) 国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作道具及び製品」の国指定重要民俗文化財指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査
- (7) その他の調査・研究

## 5 高岡市立博物館に親しむ会との連携

高岡市立博物館に親しむ会は、博物館の活動を支援するほか、高岡の歴史と文化に親しみ、相互に親睦を図る活動を行うことを目的に平成25年3月6日に設立されたものである。郷土高岡への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりを進めている。

○会員数 330件（一般317件、賛助13件）

### ・総会

日 時：平成31年4月18日(木)午後1時30分～

会 場：新館3階講堂

内 容：平成30年度事業報告、収支決算報告ならびに平成31年度事業計画(案)、収支予算(案)、役員  
の改選など

### ○記念講演会（参加者60人）

演 題：『孝子六兵衛と無声映画「輝く孝道」-高岡開町410年を記念して』

講 師：晒谷和子氏（当会副会長、元高岡市立博物館長）

弁 士：清水静子氏（当会理事、観光ガイドボランティアグループ「あいの風」）、晒谷氏



総会



講演会

### ・広報部会（計2回）

日 時：令和元年8月21日(水)午前10時～、令和2年2月27日(木)午前10時～

### ・ワークショップ部会

日 時：令和元年11月2日(土)午前10時～

### ・研修部会

日 時：令和2年2月20日(木)午前10時～

### ・役員会

日 時：令和2年3月18日(水)午後1時30分～

### 〔事業〕

・郷土史を訪ねて①「歩く博物館 ～1万歩ウォークでふるさと再発見～」(全3回。参加者累計86人)

〔第25回〕瑞龍寺のルーツ -法円寺-を<sup>たど</sup>る ④高岡宝円寺(バス・徒歩)

日 時：令和元年5月25日(土)午前9時～午後0時

講 師：樽谷雅好氏（同会研修部会長。高岡市児童文化協会副会長。以下同）

参加者：36人

〔第26回〕末広町と御旅屋を見て歩いて、今昔を偲ぶ（徒歩）

日 時：令和元年6月29日（土）午前10時～午後0時

参加者：37人

〔第27回〕成美校下の獅子舞を観て歩く（バス・徒歩）

日 時：令和元年9月14日（土）午後2時～午後5時

参加者：13人

・郷土史を訪ねて②「走る博物館 ～還暦過ぎの修学旅行～」（全2回。参加者累計50人）

〔第5回〕瑞龍寺のルーツ -法円寺-を遡る ①越前宝円寺（バス）

日 時：令和元年6月6日（木）午前8時～午後6時30分

参加者：29人

〔第6回〕芭蕉「奥の細道」を両越国境から、高岡まで擦る（バス）

日 時：令和元年8月28日（水）午前8時30分～午後3時30分

参加者：21人

・郷土史を訪ねて③「-白山市で-『加賀馬場』に迫って、白山水系を呑む」

日 時：令和元年11月15日（金）午前9時～午後5時

講 師：樽谷雅好氏（同会研修部会長。高岡市児童文化協会副会長）

参加者：12人



第5回 走る博物館  
「瑞龍寺のルーツ -法円寺-を遡る  
①越前宝円寺」（福井県越前市・宝円寺にて）



「白山水系を呑む」  
（石川県白山市・白山比咩神社にて）

・「呈茶席」（全7回。全て土曜日）

日 時：平成31年4月20日、4月27日、令和元年5月11日、  
5月18日、9月21日、10月19日、10月26日 各日  
午前11時～午後3時

※10月12日は台風のため中止した。

会 場：茶室「松聲庵」掛待合

協 力：小嵐晴美氏（同会ワークショップ部会長。

古儀茶道藪内流教授）ほか

参加者累計：193人



呈茶席

- ・「高岡古文書ボランティア」＜平成27年4月設立＞（全11回。原則第3土曜日）  
 日 時：（本年度通算47回～56回）平成31年4月20日、令和元年5月18日、6月15日、7月20日、  
 8月17日、9月21日、10月19日、11月16日、12月21日、令和2年1月18日、2月15日  
 各日午後2時～午後3時30分  
 ※3月21日は新型コロナウイルス感染拡大防止  
 のため中止した。

会 場：新館第2企画展示室

参加者累計：191人

- ・広報誌「鍛冶丸」発行  
 第12号（A4版、総頁数4、600部）  
 第13号（A4版、総頁数4、600部）



古文書ボランティア

〔ボランティア活動協力〕

- ・親しむ会事業（歩く博物館3回、走る博物館2回、白山水系を呑む1回、呈茶席7回）  
 受付等ボランティア のべ26人
- ・博物館事業（屋上開放6日間、呈茶の会2回、郷土学習講座3回）  
 受付・駐車場整理等ボランティア のべ23人

〔役員名簿〕

役職	氏名	所属	備考
会長	太田 久夫	前富山県郷土史会会長	
副会長	多田 慎一	裏千家淡交会高岡支部副支部長	
	神保 成伍	元高岡市立博物館館長	企画運営委員長
	晒谷 和子	元高岡市立博物館館長	
理事	荒俣 勝行	美術コレクター	
	本保 澄雄	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」	※平成 31 (令和元)年度新規
	岡田 有弘	岡田美術店	
	清水 静子	観光ガイドボランティアグループ「あいの風」	
	大菅 洋介	高岡商工会議所青年部理事	※平成 31 (令和元)年度新規
	樽谷 雅好	公益財団法人 高岡市民文化振興事業団評議員	研修部会長
	水上 悦子	木版画講師	
	近藤 昭美	茶道裏千家淡交会名誉師範	
	般若慎一郎	金屋町まちづくり協議会会長	広報部会長
	西 範子	茶道裏千家淡交会教授	
	小嵐 晴美	古儀茶道藪内流教授	ワークショップ部会長 ※平成 31 (令和元)年度新規
監事	中尾 光博	高岡市中田地区教育振興会会長	
	宇波真一郎	高岡古城ライオンズクラブ	

(敬称略・順不同。任期：平成31(令和元)～令和2年度)

## II 管理運営の状況

### 1 職員名簿

職名	氏名	任用
館長	廣瀬 由美子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団嘱託職員
副主幹学芸員	仁ヶ竹 亮介	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
総括主査	山本 成子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団嘱託職員
主任学芸員	宇川 恵里	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
事務員	生源 貴子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学芸員補	増田 豊	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学芸員補	伊東 梨愛	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学芸員補	坂田 吏永子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学芸員補	北野 晶子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員

※受付員：島寿男、山田早苗、武部千代子、森朝子。野村明美は令和元年9月末で退職

### 2 歳出予算（令和元年度事業別）

（単位：千円）

	事業名	前年度	本年度	差異
管理費	施設管理費	13,589	11,581	△ 2,008
	人件費（事業団職員分のみ）	19,152	19,698	546
	小計	32,741	31,279	△ 1,462
事業費	調査研究費	1,430	1,379	△ 51
	講演講習会費	248	254	6
	資料整備保存費	5,515	4,309	△ 1,206
	特別展	600	633	33
	常設展（館藏品等含む）	877	1,254	377
	小計	8,670	7,829	△ 841
合計		41,411	39,108	△ 2,303

### 3 高岡市立博物館協議会

職名	氏名	任用
学識経験者	晒谷 和子	元高岡市立博物館館長
	日和 祐樹	高岡市文化財審議会会長
	中葉 博文	富山県立新湊高等学校再任用教員
学校教育	荒井 外志明	高岡市小学校長会代表（高岡市立川原小学校長）
	杉山 直孝	高岡市中学校長会代表（高岡市立中田中学校長）
	寫田 豊	高岡地区高等学校長会代表（高岡南高等学校長）
社会教育	川津 良成	伝統工芸高岡銅器振興協同組合副理事長
	武蔵川 義則	伝統工芸高岡漆器協同組合副理事長
	本保 澄雄	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」会計
	小泉 弘子	地域女性ネット高岡会長
	端 雅美	高岡市PTA連絡協議会副会長
	加藤 嘉一郎	高岡商工会議所青年部（令和元年度観光革新委員会委員長）

〔敬称略・順不同。任期2年(令和2年2月1日～令和4年1月31日)〕

## 4 高岡市立博物館条例

平成17年11月1日  
条 例 第206号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)に基づき、高岡市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 高岡市立博物館

位置 高岡市古城1番5号

(事業)

第3条 博物館は、歴史、民俗、産業などに関する資料を収集し、保管し、及び展示して、教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査、研究等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うものとする。

(博物館協議会)

第4条 法第20条第1項の規定に基づき、高岡市立博物館協議会を置く。

2 高岡市立博物館協議会は、委員12人以内をもって組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験を有する者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

(指定管理者による管理)

第4条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせる。

(指定管理者が行う業務)

第4条の3 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 事業の実施に関する業務
- (2) 利用の許可に関する業務
- (3) 利用に係る料金の収受及び決定に関する業務
- (4) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (5) 前各号に掲げるもののほか、高岡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認める業務

(開館時間)

第4条の4 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとし、展示室へ入室できる時間は、午後4時30分とする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、教育委員会の承認を得て、これを変更することができる。

(休館日)

第4条の5 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、教育委員会の承認を得て、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日以外の日)
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

(観覧料)

第5条 博物館の展示資料を観覧しようとする者が、博物館の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)として納める観覧料は、無料とする。

2 前項の規定にかかわらず、特別展示等を行う場合の観覧料は、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て別に定める。

3 前項の観覧料は、指定管理者に観覧の際、前納しなければならない。

(施設の利用)

第6条 博物館の施設のうち次に掲げるものを利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない

附 則(平成17年12月22日条例第272号)

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、改正前の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可は、改正後の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可とみなす。

附 則(平成19年3月22日条例第17号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月22日条例第10号)抄

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第1条及び第5条から第12条までの規定は、平成24年4月1日から施行する。

(高岡市立博物館条例の一部改正に伴う経過措置)

5 この条例の施行の際現に第2次一括法による改正前の博物館法(昭和26年法律第285号。以下「旧博物館法」という。)第21条の規定により高岡市教育委員会が任命した高岡市立博物館協議会の委員(以下この項において「旧委員」という。)である者は、施行日に第8条の規定による改正後の高岡市立博物館条例(以下この項において「新条例」という。)第4条第3項の規定により高岡市立博物館協議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる委員の任期は、新条例第4条第4項の規定にかかわらず、施行日における旧委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。い。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 企画展示室(展覧会等開催のため第1企画展示室、第2企画展示室及び第3企画展示室を占用して利用する場合に限る。)

(2) 茶室

(利用の制限)

第7条 指定管理者は、前条の規定により利用の許可を受けた者(以下「利用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可を取り消し、又は利用を停止することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (2) その利用が博物館の目的に適しないと認めるとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、博物館の管理上特に必要があると認めるとき。

2 前項の規定による処分をした場合において利用者に損害が生ずることがあっても、指定管理者は、その責めを負わない。

(利用権の譲渡等の禁止)

第8条 利用者は、利用の権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復の義務)

第9条 利用者は、博物館の施設の利用を終了したときは、直ちに原状に回復しなければならない。第7条第1項の規定により、利用の許可を取り消されたときも、同様とする。

(入館の制限)

第10条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を制限し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に迷惑をかけるおそれがあると認められる者
- (2) 展示品又は施設、設備等を損傷するおそれがあると認められる者
- (3) 博物館の管理上必要な指示に従わない者

(施設利用料)

第11条 利用者は、利用料金として別表に掲げる額の範囲内で指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める額の施設利用料を納めなければならない。

2 施設利用料は、利用許可の際、納入しなければならない。

(施設利用料の減免)

第12条 指定管理者は、教育委員会規則の定めるところにより、施設利用料を減額し、又は免除することができる。

(施設利用料の不還付)

第13条 既納の施設利用料は、還付しない。ただし、指定管理者は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付す

ることができる。

(利用料金の収入)

第14条 利用料金は、指定管理者の収入とする。

(損害賠償)

第15条 利用者は、建物その他付属設備、器具等を損傷し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成17年11月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、合併前の高岡市立博物館条例(昭和45年高岡市条例第23号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定

によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

附 則(平成26年3月20日条例第52号)

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

名 称	施 設 利 用 料	
企画展示室	1日につき	9,900円
茶 室	1日につき	4,400円

備考

1 冷房又は暖房利用料は、施設利用料の2割に相当する額とする。

2 利用に際し、入場料又はこれに類するものを徴収する場合は、施設利用料の5割に相当する金額(入場料又はこれに類するものが1,000円以下の場合にあっては、3割に相当する金額)を加算する。

3 施設利用料の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り捨てるものとする。

## 5 高岡市立博物館条例施行規則

平成17年11月1日

教育委員会規則第39号

(趣旨)

第1条 この規則は、高岡市立博物館条例(平成17年高岡市条例第206号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(協議会の組織)

第2条 条例第4条に規定する高岡市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により定める。

2 会長及び副会長の任期は、委員の任期による。

3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 会議は、必要に応じ会長が招集する。

(議事)

第4条 協議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(利用許可の申請)

第5条 条例第6条の規定により、高岡市立博物館(以下「博物館」という。)の施設の利用許可を受けようとする者は、利用許可申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用期日(利用しようとする日が引き続き2日以上であるときは、その初日)の6箇月前から2週間前までの間に提出しなければならない。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(利用の許可)

第6条 指定管理者は、博物館の施設の利用を許可したときは、利用許可書を交付するものとする。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成17年11月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、合併前の高岡市立博物館に関する規則(昭和45年高岡市教育委員会規則第6号)の規定によりなされた手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則(平成17年12月22日教委規則第61号)

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、改正前の高岡市立博物館条例施行規則の規定によりなされた手続その他の行為は、改正後の高岡市立博物館条例施行規則の規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

(利用許可の取りやめ及び変更)

第7条 利用の許可を受けた者は、利用の取りやめ又は変更について許可を受けようとするときは、利用取りやめ(変更)申請書を指定管理者に提出しなければならない。

(施設利用料の減免)

第8条 条例第12条の規定により、施設利用料の減免を受けようとする者は、施設利用料減免申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 施設利用料の減免の範囲及び割合は、別表のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めて高岡市教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

3 施設利用料の減免額の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、これを10円として計算する。

(施設利用料の還付)

第9条 条例第13条ただし書の規定により施設利用料を還付する場合は、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定めるところによる。

(1) 条例第7条第1項第3号の規定により、指定管理者が利用許可を取り消したとき全額を還付する。

(2) 災害その他不可抗力により利用することができなくなったとき 全額を還付する。

(3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者が還付を必要と認めるとき8割相当額を還付する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

別表(第8条関係)

企画展示室、講堂及び茶室の施設利用料(冷暖房利用料は除く。)を減免する場合

利用区分	減免率
市又は教育委員会の主催する場合	100%
市又は教育委員会の共催する場合	50%

## 6 入館者数（「小人」は中学生以下。単位：人）

### ①常設展「高岡ものがたり－楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアム－」

会期：4月1日（月）～令和2年3月31日（火）（開催日数309日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
16,113	3,097	13,518	2,714	35,462

### ②館蔵品展「昔の道具とくらし」

会期：4月1日（月）～5月6日（月・振休）（開催日数32日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
4,433	874	4,744	841	10,892

### ③特別展「高岡開町410年記念 前田利長書状展」

会期：7月27日（土）～10月14日（月・祝）（開催日数68日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
4,261	1010	3,334	831	9,436

### ④館蔵品展「新収蔵品あれこれ」

会期：11月2日（土）～令和2年1月13日（月・祝）（開催日数58日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
2,142	286	1,756	242	4,426

### ⑤館蔵品展「昔の道具とくらし」

会期：令和2年2月1日（土）～3月31日（火）（開催日数51日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
1,684	202	1,132	133	3,151

総計（開催延日数518日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
28,633	5,469	24,484	4,761	63,347

過去5年間の入館者数

H26	H27	H28	H29	H30
41,832	34,644	40,923	49,638	58,048

## 7 当館関連記事一覧

### 〔平成31年〕

- 4月 4日 富山新聞「昭和のお宝展示／高岡市立博物館」
- 4月 5日 富山新聞「北陸総合／高岡銅器の下絵並ぶ／都内 明治の息吹感じる20点」
- 4月 5日 北日本新聞「高岡銅器の下絵紹介／東京で展覧会」
- 4月 6日 富山新聞「桜を眺めながら花見客が一服／高岡博物館でカフェ」
- 4月 6日 中日新聞「懐かしい昭和の日用品／高岡市博物館 国産第1号電気釜などを展示」
- 4月10日 富山新聞「『空海の唐櫃』完成／富山の職人ら技術結集／高岡で披露 高野山に奉納」
- 4月10日 北日本新聞「唐櫃完成 光る職人技／高野山 弘法大師御廟に食事運ぶ木箱」
- 4月10日 北日本新聞「1万円渋沢 県内に縁／24年度から新紙幣／北銀前身設立に貢献」
- 4月12日 毎日新聞「高岡銅器の下絵紹介／明治政府が図案貸与／都内で展示」
- 4月13日 富山新聞「『空海の唐櫃』公開／高岡市立博物館／富山の職人ら製作」
- 4月13日 北日本新聞「平成の職人技に関心／市立博物館『唐櫃』公開始まる」
- 4月19日 富山新聞「昭和10年の無声映画観賞／高岡市立博物館 市民が製作」
- 4月19日 北日本新聞「石瀬屋六兵衛の映画上映」
- 4月20日 北陸中日新聞「親孝行な男描いた市民製作映画上映／高岡市立博物館」
- 4月21日 富山新聞「呈茶席で一服堪能／高岡市立博物館」
- 4月21日 富山新聞「昔の道具に理解深め／高岡市立博物館」
- 4月23日 北日本新聞「明治から昭和まで暮らしの変遷紹介／市立博物館」
- 4月24日 富山新聞「鳳凰塔年内に再建／高岡・射水神社／戦前の写真を参考に／皇居の方角示し配置」
- 4月30日 富山新聞「繊細な技の美に感動」
- 4月30日 毎日新聞「市民手製 昭和初期の映画／高岡で上映 孝行息子DVDに」

### 〔令和元年〕

- 5月 4日 富山新聞「市民が古文書を整理／高岡市立博物館」
- 5月 8日 北日本新聞「TSUNAGUつなぐ／万機公論／高岡と縁深い渋沢栄一」
- 5月22日 北日本新聞「初の国産電機釜」
- 5月25日 北日本新聞「郷土の歴史に理解」
- 5月26日 富山新聞「林忠正の功績紹介／高岡市立博物館」
- 5月26日 北日本新聞「初代県知事国重正文の書／元私邸松桜閣へ“帰宅”／山井さん(高岡)入手し寄贈／レプリカ作り展示へ」
- 5月31日 富山新聞「歩いて高岡の歴史学ぶ」
- 6月 6日 北日本新聞「渋沢栄一直筆の額発見／8日から高岡市立博物館で初公開」
- 6月 7日 読売新聞「渋沢栄一の書 高岡で公開／あすから、市立博物館」
- 6月 8日 富山新聞「渋沢栄一直筆扁額見つかる／高岡市立博物館 きょうから展示」
- 6月 9日 北日本新聞「渋沢直筆 書簡と書並ぶ／高岡市立博物館 ゆかりを紹介」
- 6月12日 中日新聞「渋沢栄一の書 間近に／高岡市立博物館で展示」
- 6月26日 毎日新聞「渋沢栄一の書簡公開／高岡『新1万円札の顔』を展示」
- 6月30日 富山新聞「地域社会／まちなかの盛衰たどる／末広、御旅屋で『歩く博物館』」
- 6月30日 北日本新聞「まちなかの変遷歩いてたどる／市立博物館に親しむ会」
- 7月 4日 富山新聞「利長闘病の書状確認／晩年の5通 藩の医療伝える／『腫れ物やらぐ』『薬効かない』／高岡市立博物館」
- 7月 4日 北日本新聞「利長の闘病示す書状／市立博物館27日から特別展で初公開」
- 7月 5日 北陸中日新聞「利長書状闘病の強き心／高岡市立博物館／特別展で初公開27日から」
- 7月 6日 富山新聞「時鐘」
- 7月19日 富山新聞「藤子Fさんを訪ねて 高岡会議所」
- 7月24日 北日本新聞「利長の築城指示書状発見／市立博物館27日から公開『天守』に関する記述」
- 7月25日 富山新聞「利長、築城指示の書状／高岡市立博物館27日から初公開」
- 7月27日 富山新聞「瑞龍寺造営通説の8年後／隣接寺院の土地に増築／1653年古文書に記述／きょう高岡市立博物館で報告」
- 7月27日 北日本新聞「西部ふしぎ散歩／I高岡古城公園 お堀の水はどこから？／庄川伏流水を活用か／高い築城技術水の中に『井』の印／ハザード図にくっきり」
- 7月28日 富山新聞「地域社会／筆まめ利長の書状37点／高岡市立博物館 開町410年記念特別展」
- 8月 1日 富山新聞「木曜手帳／開町410年の誇りと鬱屈」
- 8月 3日 北日本新聞「利長の闘病・人柄示す書状」
- 8月 4日 富山新聞「利長書状で人柄しのぶ／高岡市立博物館で展示説明」
- 8月 4日 北日本新聞「利長の書状解説／市立博物館」
- 8月25日 富山新聞「国泰寺と鉄舟の關係に理解深め／高岡・太田」
- 8月26日 富山新聞「店の歴史」
- 8月26日 北日本新聞「太田の歴史・文化学ぶ」
- 9月 1日 富山新聞「利長の心に思い巡らせ／高岡で見瀬氏講演」
- 9月14日 富山新聞「高岡に伝わる曼荼羅に理解／吉久地区の研究会」

9月14日 北日本新聞「法華宗の曼荼羅 学芸員が解説／水持家」  
 10月 1日 北日本新聞「高岡城 信州からも部材／高岡市立博物館仁ヶ竹学芸員 調達示す史料発見」  
 10月 2日 富山新聞「地域社会／高岡城木材 信州で調達／市立博物館 個人所蔵書状で確認」  
 10月10日 富山新聞「地域社会／前田利常が瑞龍寺に奉納／日本刀「家重」初公開／高岡・福岡歴史資料館12日から」  
 10月11日 富山新聞「前田利長の書状に感銘」  
 10月13日 北日本新聞「高岡舞台の作品コラージュで描く／市立博物館で企画展」  
 10月14日 富山新聞「富山ワイド／米の別荘移設を紹介／高岡・二塚小 高峰博士の資料展」  
 10月14日 北日本新聞「高峰譲吉の功績を紹介／二塚小で移動資料展」  
 10月19日 富山新聞「高峰博士NY別荘の天井画、家具／300点高岡到着 年度内に公開／夫婦の肖像画も寄贈」  
 10月19日 富山新聞「高峰博士ゆかり 天井画や調度品公開／木彫作品の至宝帰る／高岡経済人との縁示す」  
 10月19日 北日本新聞「地域ワイド／高峰ゆかり名品到着／NY別邸から壁画・調度品／高岡市に300点寄贈」  
 10月23日 富山新聞「高峰博士の資料展で松楓殿公開を心待ち／高岡西部中」  
 10月23日 北陸中日新聞「高岡ゆかり 彫刻多彩／市博物館で展示」  
 11月 1日 富山新聞「村御印など547点博物館に寄贈／高岡・西藤平蔵万雑会」  
 11月 1日 北日本新聞「郷土史研究に役立てて／高岡の西藤平蔵万雑会／古文書・古地図 博物館へ寄贈」  
 11月 7日 富山新聞「新収蔵品94点公開」  
 11月20日 北日本新聞「市ゆかりの彫刻資料展示／市立博物館」  
 11月26日 中日新聞「古文書に引札 お宝資料／高岡市立博物館 初公開含む収蔵品展示」  
 12月10日 北日本新聞「江戸期の宿泊施設「高岡御旅屋」／1623年以前に創建」  
 12月11日 富山新聞「「御旅屋」創建1623年以前／高岡市立博物館が書状確認」  
 12月16日 毎日新聞「高岡御旅屋／元和9年以前に創建／市立博物館所蔵古文書で判明」  
 12月17日 北陸中日新聞「高岡御旅屋1623年以前創建か／市博物館学芸員 飯田家文書調べ新説」  
 12月28日 北日本新聞「新収蔵品94点紹介／高岡市立博物館」

〔令和2年〕

1月 1日 富山新聞「ああ高岡や①／本当はすごい街やけど…」  
 1月 3日 富山新聞「ああ高岡や②／才覚と利己心の街」  
 1月 4日 北日本新聞「高岡市立博物館／高岡の歴史を楽しく学ぼう！」  
 1月11日 北日本新聞「幕末の儒学者 頼三樹三郎／高岡城跡詠んだ漢詩書／市立博物館発見 きょうから展示」  
 1月12日 富山新聞「高岡城跡の漢詩展示／市立博物館」  
 1月15日 北陸中日新聞「勤王の志士 ほろ酔いで 高岡城詠む／頼三樹三郎の漢詩書を初展示／市博物館「同志との交流 知って」」  
 1月17日 朝日新聞「常設展お宝コーナー展「勤王の志士・頼三樹三郎と高岡」」  
 1月21日 富山新聞「ああ高岡や⑬／わらわら集まるポケモンGO／人間の宝ちゃんと見て」  
 1月22日 富山新聞「ああ高岡や⑭／わらわら集まるポケモンGO／「高岡城GO」が欲しい」  
 1月23日 富山新聞「ああ高岡や⑮／わらわら集まるポケモンGO／資料編0%でいいの？」  
 1月24日 富山新聞「ああ高岡や⑯／わらわら集まるポケモンGO／プラタモリ呼びたい」  
 1月25日 富山新聞「ああ高岡や⑰／お買い物ラリーでひとつもうけ／「見る目」が試される街」  
 1月26日 富山新聞「ああ高岡や⑱／ライトアップでインスタ映え／鳳凰のごとく柔らかに」  
 2月 1日 北日本新聞「昔の生活に思いはせ／市立博物館きょうから「道具とくらし」展」  
 2月 2日 富山新聞「暮らし変遷伝える民具150点を展示／高岡市立博物館」  
 2月 2日 北陸中日新聞「とやま遺産／高岡城跡の石垣／利長築城時の姿残す」  
 2月 6日 北日本新聞「昔の道具に興味津々／西条小3年生市立博物館で見学」  
 2月15日 北陸中日新聞「昔の暮らし 伝える道具／高岡市博物館が展示」  
 2月18日 毎日新聞「明治－昭和の生活とは？／市立博物館 道具や写真展示」  
 2月22日 富山新聞「ああ高岡や⑳／街を飛び交うカラスたち／古御城の歴史に学ぼう」  
 2月27日 富山新聞「松楓殿の秀作100点／高峰博士のNY別荘／来月27日から特別展」  
 2月27日 北日本新聞「高峰別邸来月27日再現／高岡商工ビルにNYの「松楓殿」壁画や家具常設」  
 2月29日 北日本新聞「西部ふしぎ散歩／⑧前田利長墓所の大灯籠／6メートルの威容 周囲圧倒／早月川の花こう岩使う」  
 3月 4日 富山新聞「街を歩くと／高岡・常国 弓の清水伝説／義仲 本当に矢放った？／地元の掛け軸は放つ 文献は「地面突く」」  
 3月 4日 読売新聞「民具に学ぶ昔の生活／高岡市立博物館150点並ぶ」  
 3月 6日 読売新聞「幕末の高岡たどる書／市立博物館 志士の漢詩など展示」  
 3月 7日 富山新聞「セリオに松楓殿所蔵品／高岡会議所、新年度に展示」  
 3月28日 富山新聞「「松楓殿」高岡の宝に／高峰博士の別荘NYから移設／生誕の地に里帰り、感嘆」  
 3月28日 富山新聞「高峰博士の別荘再現／NYの松楓殿／高岡で公開始まる」  
 3月28日 北日本新聞「高峰別邸 故郷に完成／高岡商工ビル 功績伝える特別展」  
 3月28日 北陸中日新聞「豪華 松楓の間公開／高岡 高峰博士別荘の再現展示」  
 3月31日 富山新聞「社説／「松楓の間」常設／高峰博士の顕彰事業に弾み」  
 3月31日 富山新聞「高峰博士 別荘「松楓殿」水墨画／パリ万博に出品／荒木探令作、目録に記載／「文化発信」「国際親善」の証」

### Ⅲ 施設の状況

#### 1 沿革

- 昭和44年（1969） 市制施行80周年・開町360年記念事業として高岡市美術館（昭和26年築）に隣接して建設することを決定。
- 8月 建設設計を完了。
- 10月 建設工事を着工。
- 45年（1970） 3月 建設工事を完了。高岡市立博物館条例を公布。
- 6月 高岡市立博物館に関する規則を公布。
- 開館。
- 8月 高岡市立博物館協議会委員委嘱（12人）。
- 46年（1971） 2月 博物館法（昭和26年法律第285号）第10条の規定に基づく公立博物館として文部省及び富山県教育委員会に登録。
- 10月 淡交会高岡支部より茶室を寄贈される。
- 平成6年（1994） 4月 美術館の移転分離により、旧美術館棟を博物館棟（現本館）として財産登録。高岡市立博物館条例を一部改正。
- 8月 高岡市立博物館整備検討委員会設置（以後平成10年1月まで6回会議）。
- 8年（1996） 4月 財団法人高岡市民文化振興事業団へ管理運営委託。
- 10年（1998） 2月 高岡市立博物館整備検討委員会により「高岡市立博物館整備検討委員会報告書」が高岡市に提出される。
- 10月 本館で常設展「郷土の暮らしと文化」開催。
- 12年（2000） 新館1階収蔵庫改修工事の実施。
- 14年（2002） 7月 ホームページを公開。
- 18年（2006） 4月 財団法人高岡市民文化振興事業団が指定管理者となる。
- 19年（2007） 7月 常設展を「高岡ものがたり」にリニューアル。
- 11月 高岡市立博物館整備構想検討委員会設置（以後平成21年度まで継続）。
- 20年（2008） 11月 常設展リニューアル以後の入館者3万人を達成。
- 22年（2010） 2月 高岡市立博物館整備構想検討委員会より「高岡市立博物館整備構想報告書」が高岡市に提出される。
- 10月 デジタルアーカイブ推進事業を開始（～平成25年3月）。
- 23年（2011） 本館収蔵庫改修工事の実施。
- 10月 『二上射水神社文書目録』を編集。
- 24年（2012） 4月 指定管理者の財団法人高岡市民文化振興事業団が公益財団法人に移行。
- 10月 「収蔵資料検索システム－あなたの家が博物館－」の運用開始。
- 25年（2013） 3月 高岡市立博物館に親しむ会設立。
- 4月 佐渡家資料調査事業を開始。
- 常設展示室に「お宝コーナー」開設。
- 6月 常設展「高岡ものがたり」音声ガイド5台導入。
- 27年（2015） 3月 『佐渡家資料目録』を編集・発行。佐渡家資料調査事業を終了。
- 4月 高岡古文書ボランティア部会（親しむ会）設立。
- 28年（2016） 5月 本館入口付近の壁面等落下のため、本館正面玄関を閉鎖。
- 12月 本館正面玄関修繕工事の実施。
- 29年（2017） 6月 国登録有形文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の国指定重要指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査開始。
- 9月 本館屋根瓦葺き替え工事の実施。
- 10月 本館天井張り替え工事の実施。
- 30年（2018） 10月 博物館サテライトギャラリーの開設（於・高岡テクノドーム）。
- 31年（2019） 3月 高岡市立博物館に親しむ会が発足5周年を迎える。
- 令和元年 11月 博物館が所蔵（保管）する一括資料目録のネット公開を開始。

## 2 施設概要

所在地	富山県高岡市古城1番5号
敷地面積	1,298.6㎡
建築面積	1,214.91㎡
建築延面積	1,905.21㎡
開館	昭和45年6月1日
構造	鉄筋コンクリート造一部木造平屋建て(本館・事務棟) 鉄筋コンクリート造3階建て(新館)

### 〔本館〕

エントランスホールB	81.00㎡
第1常設展示室	243.00㎡
第2常設展示室	145.80㎡
休憩室	35.64㎡

### 〔新館1階〕

収蔵庫A	48.50㎡
第1企画展示室	97.20㎡

### 〔新館2階〕

第2企画展示室	145.80㎡
第3企画展示室	51.84㎡

### 〔新館3階〕

講堂	145.80㎡
収蔵庫C	64.80㎡
展示用具倉庫	17.70㎡

### 〔事務棟〕

収蔵庫B	48.50㎡
館長室	49.50㎡
事務室	27.50㎡

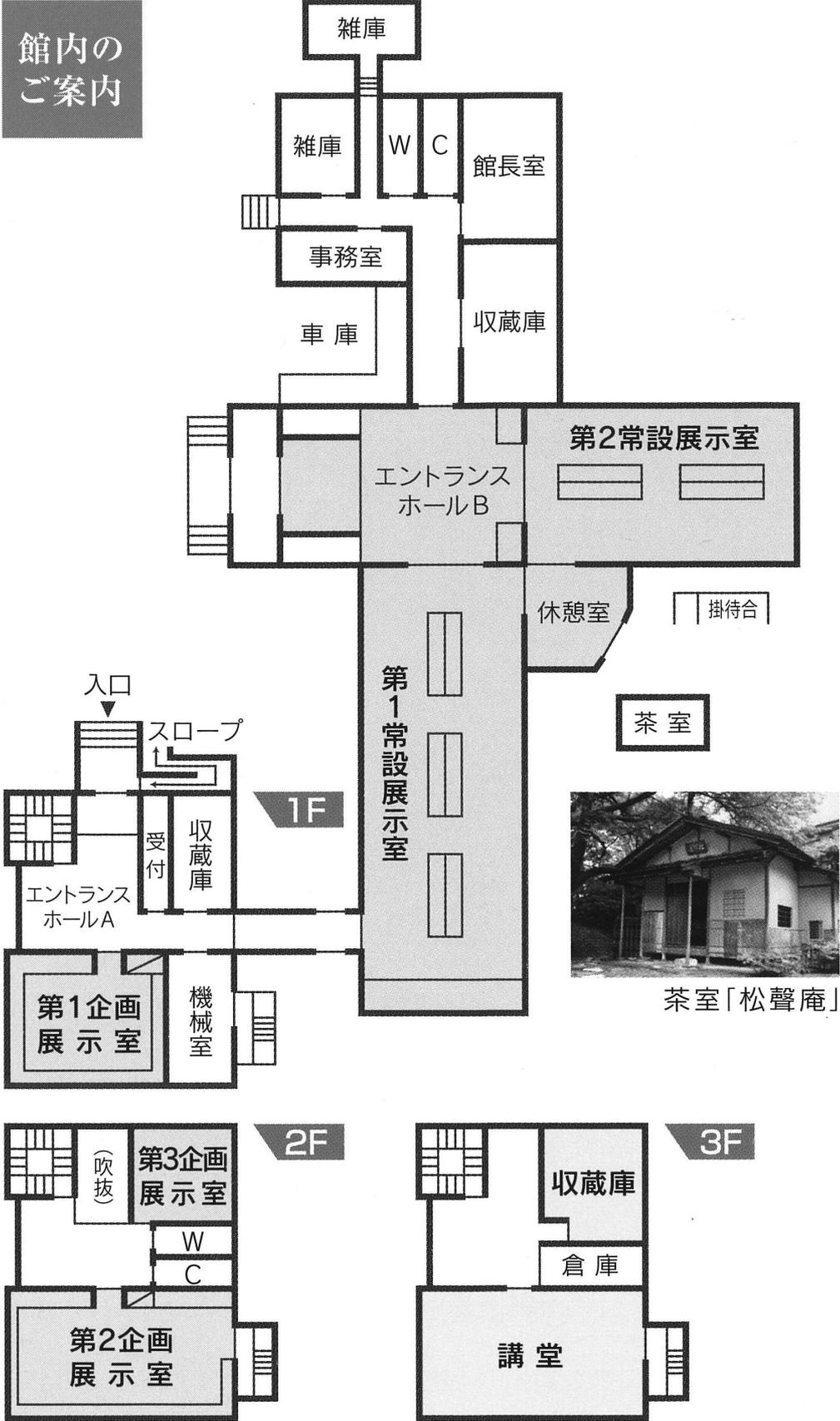
### 〔茶室〕

九畳本勝手下座床・水屋付き	29.48㎡
腰掛待合 三畳半	11.08㎡



博物館前景

館内のご案内



茶室「松聲庵」

### 3 利用案内

- ①開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
②休館日 月曜日（ただし月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌平日が休館）  
年末年始（12月29日～1月3日）

③入館料 無料

④施設利用料（税抜）

〔企画展示室〕 一日につき	第1企画展示室	3,000円
	第2企画展示室	4,500円
	第3企画展示室	1,500円

〔茶室〕 一日につき 4,000円

⑤交通

〔JR新高岡駅より〕・南口バス乗り場（1番または2番）で加越能バス「高岡駅」方面に乗車、「高岡駅南口」バス停下車

・JR城端線で高岡駅へ

〔高岡駅より〕・加越能バス「市民病院・職安前」行き、「大手町」バス停下車、徒歩5分

・徒歩約15分（高岡駅前より北東約1km）

〔自動車〕

・能越自動車道 高岡ICから約20分

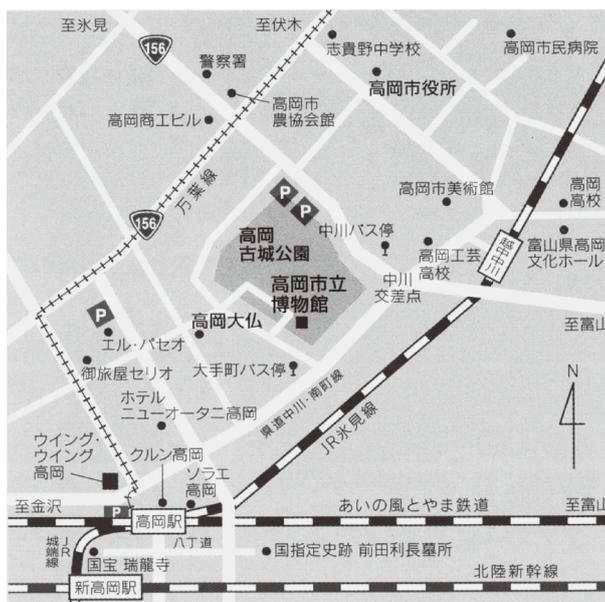
高岡北ICから約25分

・北陸自動車道 高岡砺波スマートICから約15分

小杉ICから約30分

砺波ICから約30分

〔周辺略図〕



## 高岡市立博物館年報 第34号

令和元年度

---

発行日	令和3年1月29日
編集・発行	高岡市立博物館 〒933-0044 富山県高岡市古城1-5 TEL : 0766-20-1572 FAX : 0766-20-1570 URL : <a href="https://www.e-tmm.info/">https://www.e-tmm.info/</a>
印刷	キクラ印刷株式会社